

O&O software

O&O DiskImage

目次

1 はじめに 4

2 最初の手順 5

2.1 システム要件 5

2.2 インストールとライセンス認証 8

2.3 クイックスタート 10

2.4 初めてのバックアップ 12

3 基本事項 15

3.1 バックアップの対象 15

3.2 バックアップの保存先 18

4 バックアップ 21

4.1 バックアップのオプション 21

4.2 スケジュールと自動実行 24

4.3 ファイル名と除外項目 26

4.4 2つ目のコピー 27

5 復元 29

5.1 復元の概要 29

5.2 ファイルの復元 32

5.3 ドライブの復元 34

6 クローンと復旧 37

6.1 ドライブのクローン 37

6.2 起動メディアと回復環境 40

7 管理 43

7.1 バックアッププランと保存済みのバックアップ 43

7.2 レポートとログ 46

7.3 ツール 49

8 設定 58

9 用語集 62

10 トラブルシューティング 64

11 よくある質問 67

12 サポートとO&Oのその他の製品 70

はじめに

このガイドでは、**O&O DiskImage 23 Premium Edition** を使用してWindows PCをバックアップし、データを復元する方法、ディスクのクローンを作成する方法、システム障害に備える方法を説明します。画面例は英語版のものです。手順では日本語版の画面に表示される名称を使用します。

まず、何を保護するか、どこに保存するか、いつ実行するかを決めます。これらの設定に履歴やその他のオプションを加えたものがバックアッププランです。

主な機能

- **PC全体をバックアップ** するほか、選択したドライブやパーティション、個別のファイルやフォルダーだけを保存することもできます。
- **バックアップ履歴を保持** し、日・週・月ごとの復元ポイントや、独自の保持ルールを設定できます。
- **2つ目のコピーを保存** できます。別のドライブ、ネットワーク共有、S3互換ストレージ、WebDAVに対応しています。
- **バックアップを自動化** できます。1回限り、毎日、毎週、毎月、毎時、連続、ドライブの接続時から実行方式を選択します。
- **ファイル、パーティション、ディスク全体を復元** できます。利用可能な2つ目のコピーからの復元にも対応しています。
- **仮想ディスクを利用** できます。VHD/VHDXバックアップと、対応するHyper-Vチェックポイントを使用できます。
- ドライブを交換・移行するときに **ディスクのクローンを作成** できます。
- ローカルの回復環境や起動メディアを準備して、**Windowsが起動しない場合の復元に備える** ことができます。
- **レポートと通知を確認** して、完了した操作の結果や失敗の原因を調べられます。

最初に読む項目

初めてバックアップする場合は クイックスタート と 初めてのバックアップ を参照してください。継続的な保護に必要な設定は バックアップのオプション、スケジュールと自動実行、2つ目のコピー で確認できます。

Windowsの復元が必要になる前に、回復環境または起動メディア を準備し、起動とバックアップへのアクセスをテストしてください。

このガイドはPremium Editionを対象としています。体験版で制限のあるツールについては、該当する画面に説明とライセンスの購入・認証用リンクが表示されます。

システム要件

O&O DiskImage 23はWindows PCのバックアップと復元を行います。ここでは、コンピューター、保存先、復元に使用する環境の要件を説明します。対応するWindowsのバージョンは O&O DiskImage製品ページ を参照してください。

コンピューター

要件	詳細
オペレーティングシステム	Windows。稼働中のWindowsシステム、アプリケーション、設定、個人データをバックアップできます。
バックグラウンドサービス	アプリケーションと一緒にインストールされ、スケジュール、2つ目のコピー、メール通知を処理します。サービスとアプリケーションのバージョンに互換性がない場合は、スケジュールが一時停止します。
通知領域のアプリケーション	ドライブ接続時のバックアップに必要です。管理者は、メイン画面を管理者として開かなくても、プランの開始や操作のキャンセルができます。
電源	ノートPCはバックアップの前に電源に接続してください。バックアップと転送の間、PCはスリープしません。
スリープ解除タイマー	スケジュール実行のためにスリープを解除する場合は、使用中のWindows電源プランでタイマーを許可します。

バックアップの保存先

要件	詳細
別のディスク	外付けドライブ、USBドライブ、ネットワーク共有（NAS）などを使用します。保護するデータとは別の物理ディスクに保存してください。Windowsがインストールされているディスクは保存先として推奨されません。
空き容量	初回のフルバックアップ、履歴、その後の実行時に必要な一時領域を確保します。フォレンジックバックアップには対象全体に相当する容量が必要です。
ネットワーク共有	有効なサーバー名と共有名を含むUNCパス、認証情報、書き込み権限が必要です。
VHD/VHDXバックアップ	対象のボリュームに排他的にアクセスでき、別の物理ディスクに保存できることが必要です。

2つ目のコピー

2つ目のコピーには、別の物理ディスクまたはリモートの保存先が必要です。

- **ネットワーク共有**：UNCパス、認証情報、書き込み権限。
- **S3互換ストレージ**：エンドポイント、バケット、リージョン、アクセスキー、必要に応じてパスのプレフィックス。
- **WebDAV**：サーバーアドレス、フォルダー、認証情報。

アップロードにはバックグラウンドサービス経由でコンピューターのプロキシ設定が使用されます。インターネット経由の転送にはHTTPSを使用してください。

リカバリ

方法	要件
ローカルの回復環境	コンピューター上でWindows回復環境（WinRE）が正常に動作すること。
起動メディア	フォーマットしてもよいUSBデバイスまたはISOファイル。コンピューターが作成したメディアから起動できること。
ライセンスの確認	回復環境がライセンスを確認する必要がある場合はインターネット接続が必要です。有線ネットワークの使用を推奨します。

起動メディアと回復環境 を参照してください。

次に読む項目

- インストールとライセンス認証
- クイックスタート

インストールとライセンス認証

インストールの前に システム要件 を確認してください。製品情報は O&O DiskImage製品ページ を参照してください。

インストールされるコンポーネント

コンポーネント	役割
アプリケーション	バックアッププランの設定、復元、クローン、ツールの実行、各種設定を行います。
バックグラウンドサービス	メイン画面を閉じていても、日時指定のバックアップ、2つ目のコピー、古いバージョンの削除、メール通知を実行します。
通知領域のアプリケーション	進行状況の表示、プランの開始、操作のキャンセルのほか、接続時にバックアップするドライブの検出を行います。

インストール後は、必要になる前に **リカバリ** を開いてローカルの回復環境または起動メディアを準備してください。起動メディアと回復環境 を参照してください。

体験版とライセンス

体験版では、クローンや一部のツールなどに制限があります。該当する画面には制限の内容と、ライセンスの購入または認証へのリンクが表示されます。

O&O DiskImageを認証するには、該当する画面のライセンス認証のリンクを選択します。バックアップのマウント解除は体験版でも利用できます。

回復環境では、ライセンスの確認にインターネット接続が必要になることがあります。可能であれば有線ネットワークを使用してください。

更新後の確認

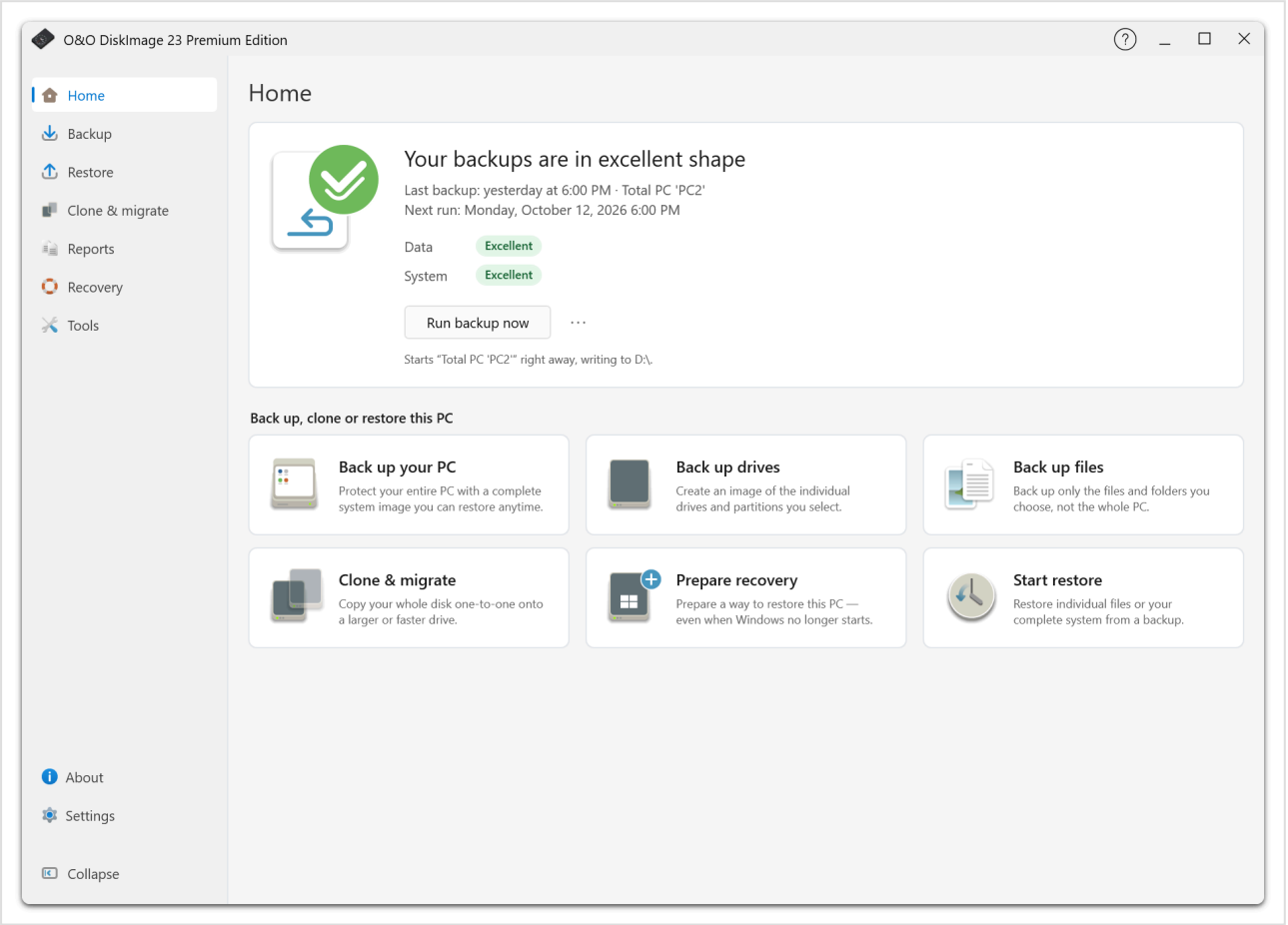
- アプリケーションとバックグラウンドサービスのバージョンに互換性がない場合は、スケジュールが一時停止し、更新方法が表示されます。サービスを更新するまでは、利用可能な場合に限りアプリケーションから手動でバックアップできます。
- サービスのバージョンがS3またはWebDAVへのアップロードに対応していないと表示された場合は、サービスを更新してください。
- **リカバリ** を開いて状態を確認します。ローカルの回復環境が古いと表示された場合は、作成し直してください。
- 既存のプランには、設定を変更するまで従来の保持ルールが適用されます。

次に読む項目

- クイックスタート
- 初めてのバックアップ

クイックスタート

まずバックアップを作成し、次にWindowsが起動しなくなった場合に備えて復元手段を準備します。



ホーム画面には、バックアップの状態と、バックアップ、クローン、リカバリの操作が表示されます。

準備

外付けバックアップドライブを接続するか、ネットワーク共有を準備します。初回のフルバックアップと以降のバージョンのために十分な空き容量を確保してください。ノートPCは電源に接続します。

初回のバックアップを作成する

1. **O&O DiskImage 23 Premium Edition** を開きます。
2. **バックアップ > PC全体** を選択します。
3. **対象** を確認し、**保存先** でバックアップを書き込む場所を選択します。
4. **実行タイミング** を確認します。既定では自動バックアップが有効で、外付けドライブの場合は接続時、それ以外の場合は毎日18:00に実行されます。

5. **その他のオプション** で履歴、暗号化、検証を確認します。暗号化が必要な場合は、ここでパスワードを設定してください。
6. 初回のバックアップを今すぐ実行する設定を選び、**バックアップを開始** を選択します。
7. 完了後に **レポート** を開き、実行結果と2つ目のコピーに関する警告を確認します。

初回の設定例

設定	設定例
対象	PC全体
保存先	外付けドライブまたはNAS
履歴	必要容量の見積もりが保存先に収まる場合は1か月
方式	自動
形式と技術	O&O DiskImage形式、使用中のセクター
圧縮	標準のLempel-Ziv
検証	有効
2つ目のコピー	別のディスクまたはリモートの保存先

プランは後から調整できます。設定項目については 初めてのバックアップ を参照してください。

復元に備える

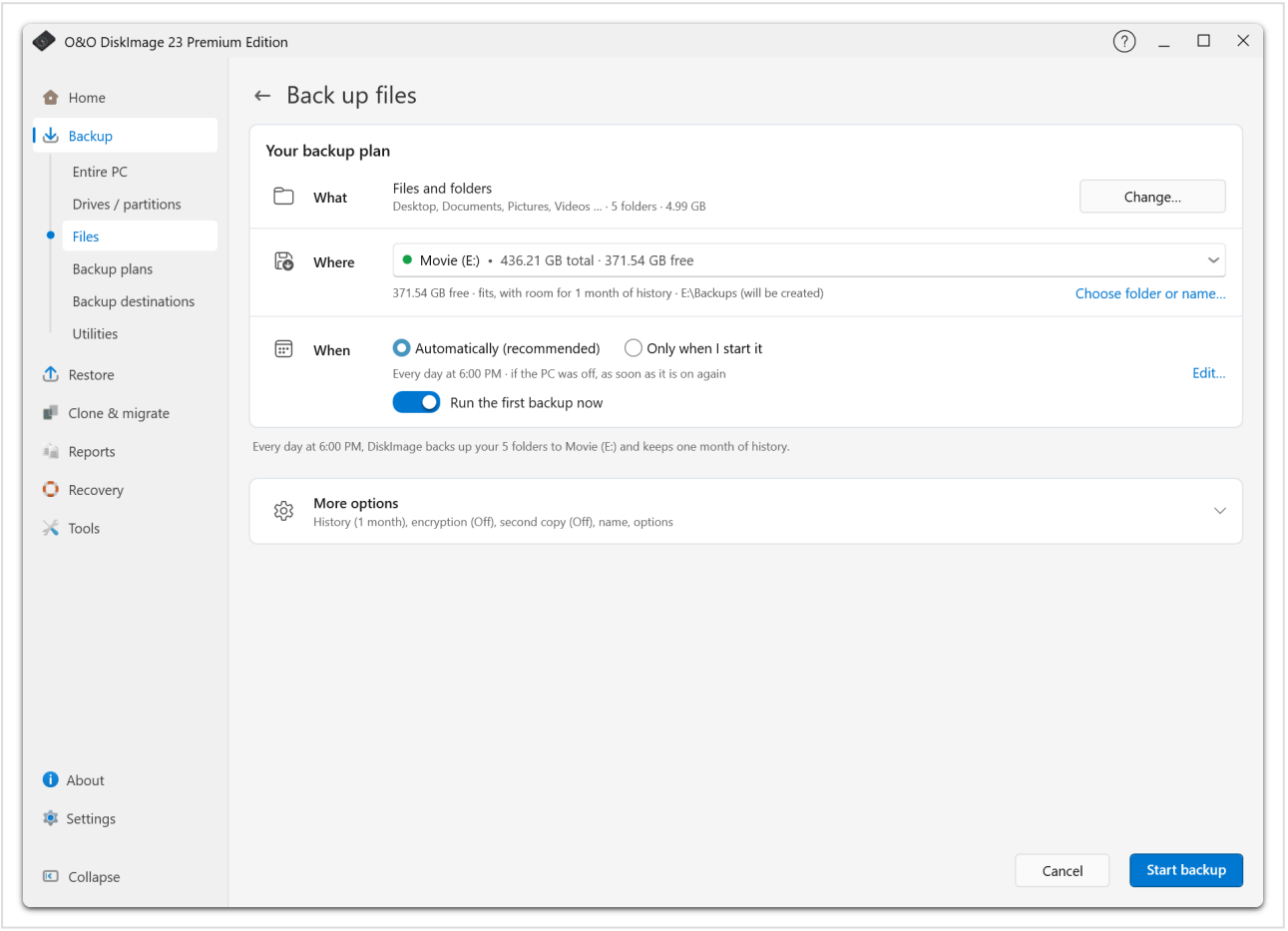
リカバリ でローカルの回復環境を準備するか、起動メディアを作成します。選択した方法でPCが起動し、バックアップにアクセスできることをテストしてください。

ホーム と **復元** の状態カードには、バックアップによる保護の状況、利用できる履歴、復元時の起動方法が表示されます。バックアップがない場合や回復環境の再作成が必要な場合は、表示される案内に従ってください。

起動メディアと回復環境 を参照してください。

初めてのバックアップ

バックアッププランには **対象**、**保存先**、**実行タイミング** が表示されます。各項目を確認し、必要に応じて **その他のオプション** を設定したら、バックアップを実行するか、プランを保存します。



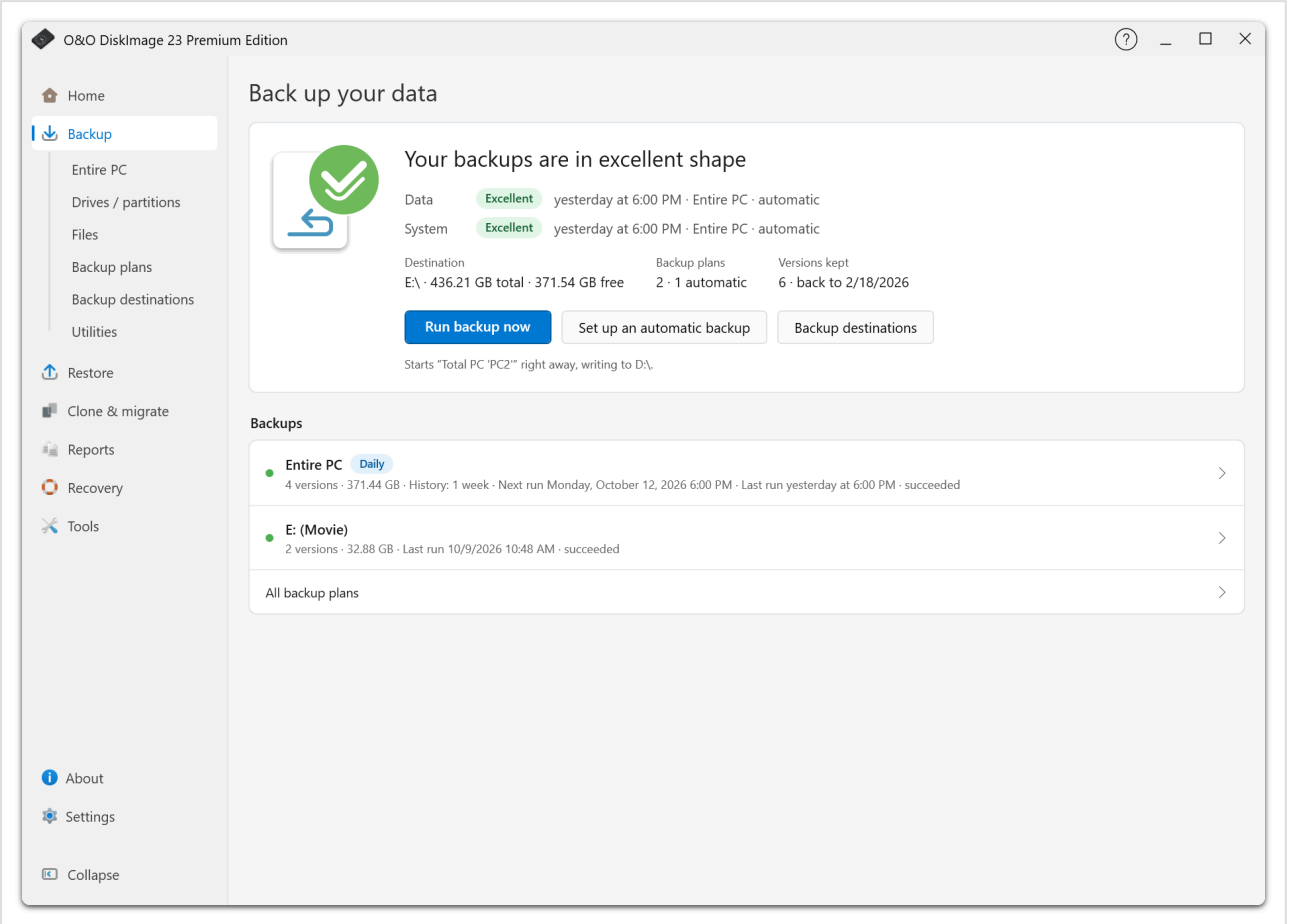
ファイルバックアップの例。プランの「対象」「保存先」「実行タイミング」でバックアップ元、保存場所、スケジュールをまとめて確認できます。

バックアップする対象を選ぶ

ナビゲーションの **バックアップ** で、次のいずれかを選択します。

選択肢	用途
PC全体	Windows、アプリケーション、設定、個人データ。
ドライブ / パーティション	選択したディスクまたはパーティションのイメージ。
ファイル	選択したファイルとフォルダー。

ドライブまたはファイルの場合は、対象を選択してからプランの内容を確認します。**対象** の **変更…** で選択画面に戻ることができます。



バックアップの概要画面には既存のプランと、バックアップを開始または設定するための操作が表示されます。

保存先を選ぶ

十分な空き容量のある外付けドライブまたはネットワーク共有を選択します。PC全体のバックアップでは、外付けドライブまたはネットワークの保存先が優先して提案されます。Windowsがインストールされているディスクは推奨されません。

求められた場合はネットワークの認証情報を入力し、接続をテストします。**保存先** では 2つ目のコピー も設定できます。元のバックアップを作成した後に、S3やWebDAVにアップロードすることもできます。

実行時期を選ぶ

新しいプランでは **自動（推奨）** が選択されています。外付けドライブの場合は接続時に1日1回を上限として実行します。それ以外の場合は毎日18:00に実行し、予定時刻に実行できなければ後から実行します。

スケジュールを変更するには **編集…** を選択します。手動で実行する場合は **手動で開始したときのみ** を選択します。自動実行を設定しつつ初回はすぐに実行する場合は、**最初のバックアップを今すぐ実行** を選択したままにしてください。

その他のオプションを確認する

- **履歴**：どの時点までさかのぼって復元できるようにするかを選び、必要な容量の目安を確認します。
- **暗号化**：初回のバックアップ前にパスワードを設定します。
- **検証**：作成したバックアップの整合性と、読み取れることを確認します。
- **名前**：プラン一覧に表示する名前を指定します。
- **形式、圧縮、検証、除外**（ファイルのプランでは **圧縮、検証、除外**）：圧縮、命名テンプレート、除外項目、バックアップ技術、レポートを設定します。

制限と詳細については バックアップのオプション を参照してください。

実行して結果を確認する

すぐに実行するには **バックアップを開始** を、初回もスケジュールに従う場合は **プランを保存** を選択します。進行状況の画面に現在の操作が表示され、必要に応じてキャンセルできます。コンパクト表示でも状態と操作ボタンを確認できます。

完了後に **レポート** を開き、警告の有無を確認します。2つ目のコピーを有効にした場合は、その結果も確認してください。元のバックアップが成功しても、コピーのアップロードが完了したとは限りません。

プラン一覧 で、後からスケジュールを変更したり、再びバックアップを開始したりできます。

バックアップの対象

バックアップの対象は、保護するデータです。ナビゲーションの **バックアップ** で **PC全体**、**ドライブ / パーティション**、**ファイル** のいずれかを選択します。

PC全体

PC全体のバックアップには、Windows、インストール済みのアプリケーション、設定、個人データが含まれます。システムの復元に備える場合は、まずこのバックアップを作成してください。

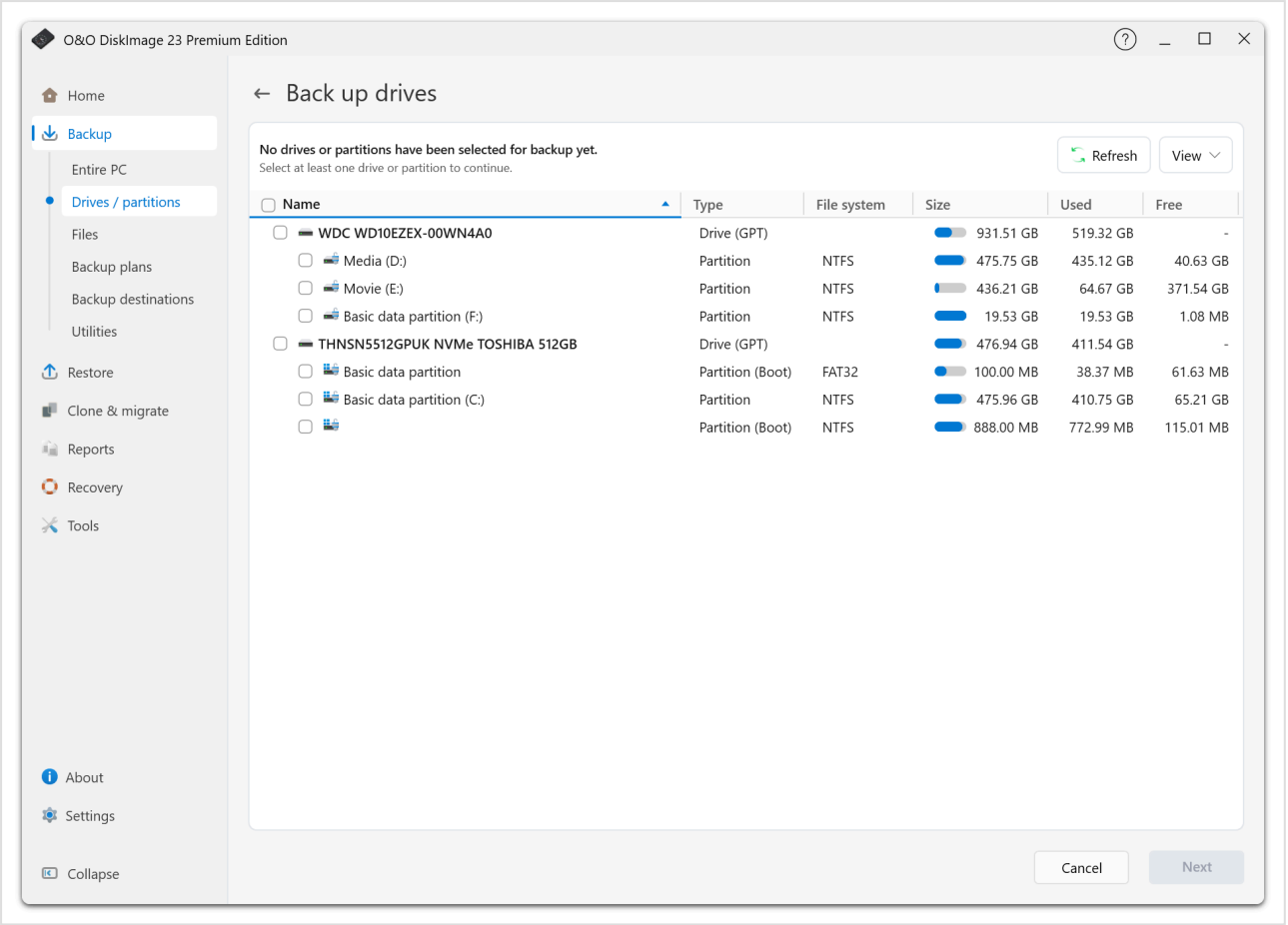
バックアップだけを保存している保存先ディスクは、イメージ作成の対象から除外されます。保存先ディスクに他のデータもある場合は、そのデータを保護するため、対象に含まれることがあります。PC全体のバックアップから除外したディスクはレポートに記載されます。接続したすべてのディスクが含まれるとは限らないため、対象と保存先を確認してください。

ドライブとパーティション

対象を個別に指定するには、ディスク全体または個々のパーティションを選択します。一覧では、ディスク全体を選択した対象はディスクとして表示されます。対象を取り外しても識別情報は残り、接続先のない小さなパーティションとして表示されることはありません。

表示 メニューでは、表示方法の変更やディスクマップの表示ができます。**種類** 列で各パーティションの役割を確認できます。

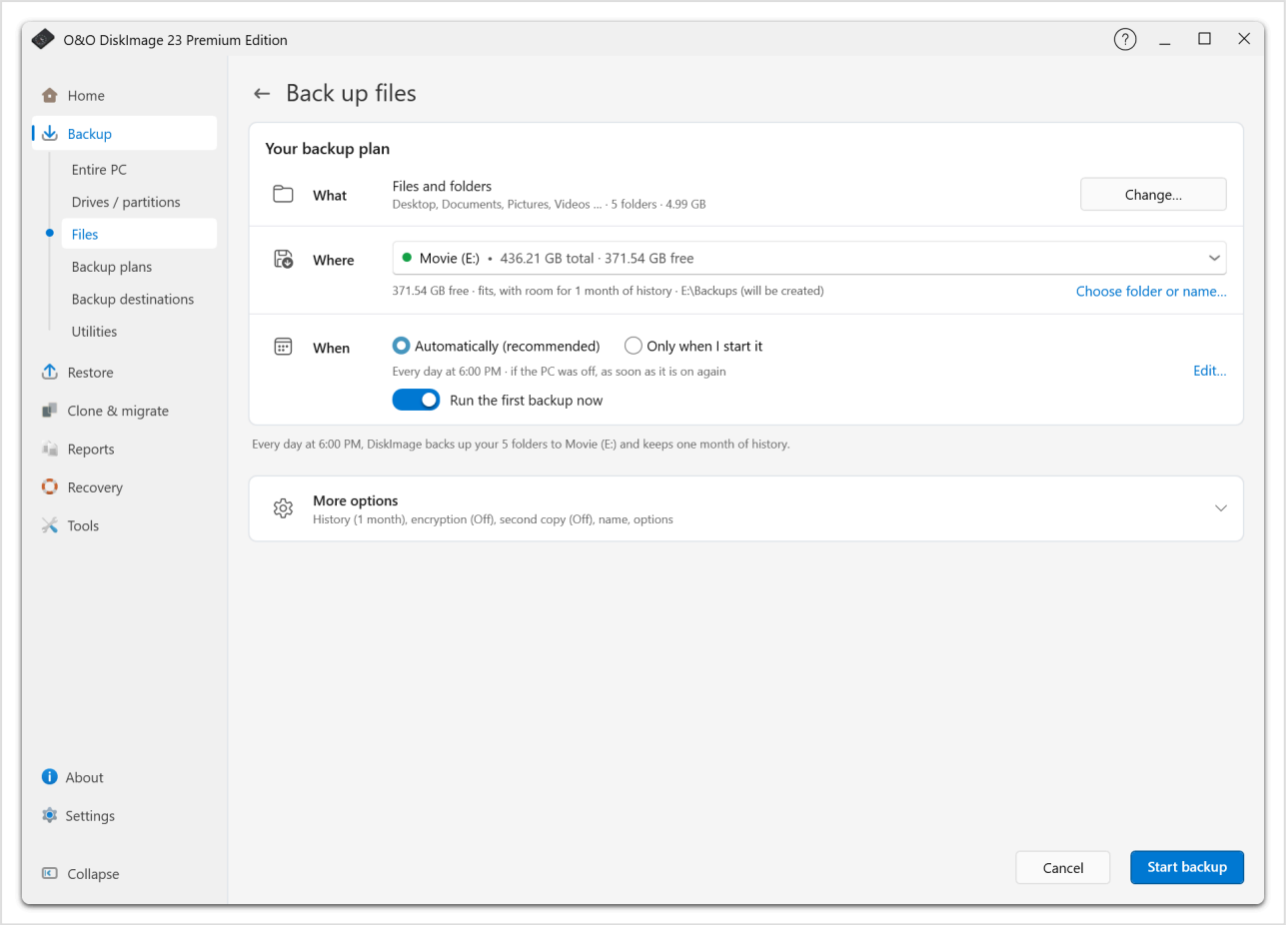
通常、イメージには使用中のセクターがコピーされます。フォレンジック方式では、未使用のセクターを含む対象全体がコピーされます。形式や技術による制限は バックアップのオプション を参照してください。



ドライブ一覧からバックアップするディスクまたはパーティションを選択します。

ファイルとフォルダー

文書、プロジェクト、その他ディスク全体のイメージが必要ないデータには、個別のファイルやフォルダーを指定します。Windowsとインストール済みアプリケーションを復元するには、ファイルバックアップとは別にシステムイメージが必要です。



ファイルバックアップの例。プランの「対象」「保存先」「実行タイミング」でバックアップ元、保存場所、スケジュールをまとめて確認できます。

対象の変更

既存のドライブまたはファイルのプランを開き、**対象** の横の **変更…** を選択します。新しい選択内容を確認して保存します。変更後の対象を基に以降のバージョンを作成できるよう、次回はフルバックアップになります。プラン画面でキャンセルすると変更は破棄されます。

既定の除外項目

一時ファイル、ページングファイル、休止状態ファイル、システムボリューム情報、O&O DiskImageのバックアップコンテナーは、該当する場合に除外されます。

VHD/VHDXなどの仮想ディスクファイルは既定で含まれます。バックアップが自身を取り込まないように、O&O DiskImage自身が作成した仮想ディスク形式のバックアップは除外されます。除外ルールによってドライブ上のすべての仮想ディスクが対象外になる場合は警告が表示されます。

除外項目は初回のバックアップ前に確認してください。一度でもバージョンを保存すると変更できません。ファイル名と除外項目 を参照してください。

バックアップの保存先

保存先には、初回のフルバックアップとその後の履歴に加え、以降の実行時に必要になる一時領域を確保してください。

保存先の種類

保存先	用途
ローカルまたは外付けドライブのフォルダー	Windowsからアクセスできるディスクに元のバックアップを保存します。
USBドライブ	元のバックアップを保存できます。接続をきっかけにバックアップを開始することもできます。
NAS／ネットワーク共有	`\\server\share` などのUNCパスで指定したフォルダーに保存します。
WebDAV	元のバックアップの作成後に、2つ目のコピーを保存します。
S3互換ストレージ	指定したバケットとパスに2つ目のコピーを保存します。

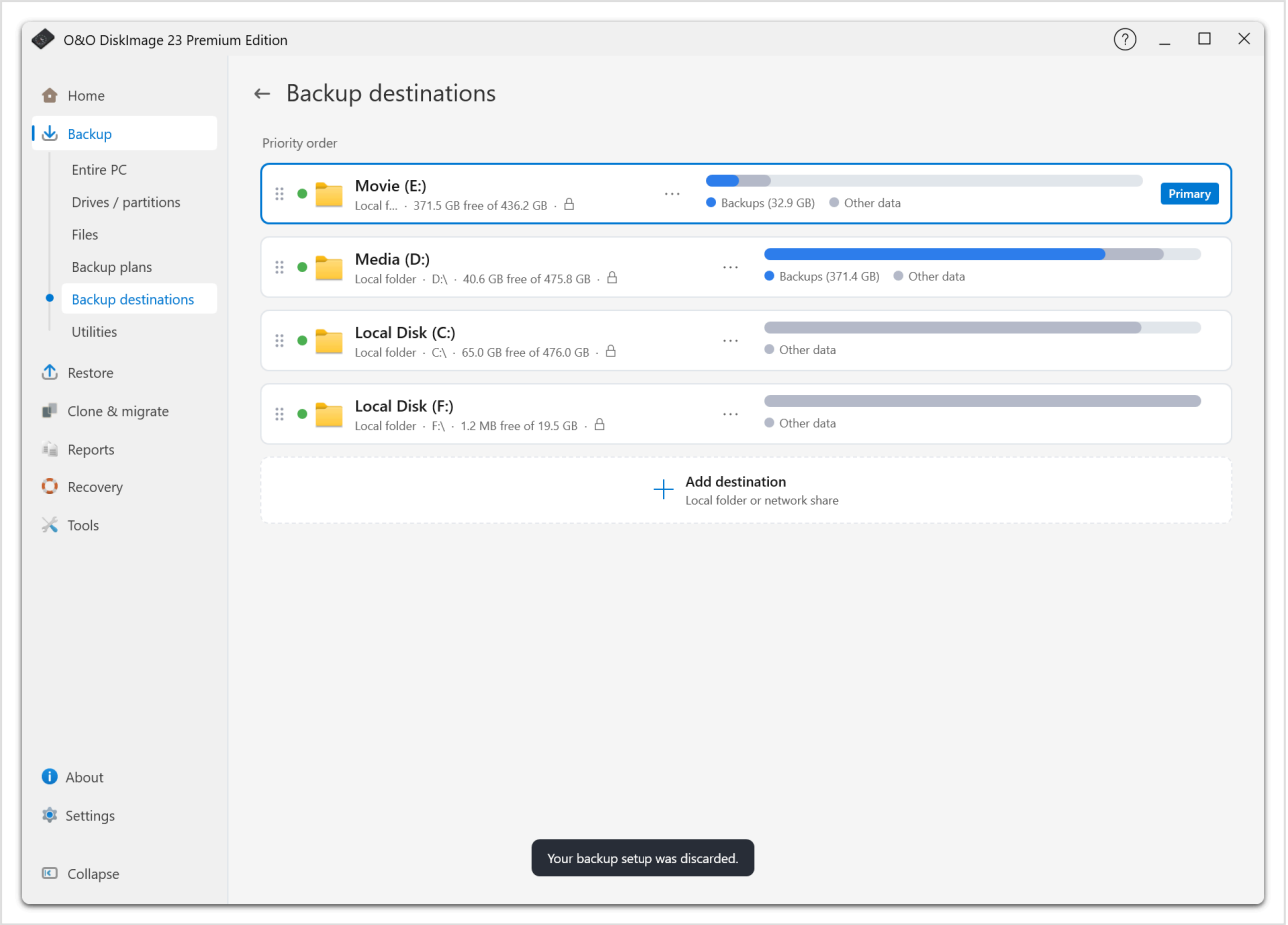
クラウドにも保存する場合は、まずローカルまたはネットワークのフォルダーにバックアップを作成し、S3またはWebDAVへの 2つ目のコピー を設定します。クラウドの保存先を追加しても、イメージ作成時に直接書き込めるフォルダーとしては使用できません。

保存先の選択と整理

バックアップ保存先の画面では、保存先の追加、編集、既定の保存先の指定ができます。取得可能な場合は、利用可否、空き容量、総容量、バックアップの使用容量も表示されます。

各保存先のハンドルをドラッグすると、表示順を変更できます。PC全体のバックアップでは、外付けドライブとネットワークストレージが優先して提案され、次に利用できる他のディスクが候補になります。Windowsがインストールされているディスクは推奨されません。

バックアップは、保護するデータとは別の物理ディスクに保存してください。同じディスクの別パーティションに保存しても、ディスクが故障すれば両方とも失われます。



バックアップ保存先の画面には、ドライブの優先順位、使用容量、既定の保存先が表示されます。

ネットワークの認証情報

ネットワーク共有には、UNCパス、ユーザー名、パスワードを入力します。認証情報は対象のサーバーと関連付けてWindows資格情報マネージャーに保存されます。

設定後やパスワード変更後は **接続テスト** を実行し、アクセス権と書き込み権限を確認します。ネットワークパスには有効なサーバー名と共有名が必要です。

S3にはエンドポイント、バケット、リージョン、アクセスキー、および必要に応じてパスのプレフィックスを指定します。WebDAVにはサーバーアドレスと認証情報が必要です。クラウドへのアップロードとプロキシについては 2つ目のコピー を参照してください。

USBドライブの識別

O&O DiskImageは、シリアル番号、ボリューム名、容量、モデルなど、取得できる情報を使ってドライブを識別します。そのため、同じドライブ文字が割り当てられた別のドライブの接続で、誤ってバックアップが始まるのを防ぎやすくなります。

ドライブ接続時に実行するには、通知領域のアプリケーションを起動したままにしてください。外付けドライブは、バックアップとすべてのコピーが完了してから取り外せます。

空き容量と接続状態

プランに表示される履歴の必要容量を目安に、保存先の空き容量を確認します。復元に必要なバックアップチェーンのファイルは保持されるため、古いファイルのすべてがすぐに削除されるとは限りません。

保存先が接続されていない場合は、復元前に再接続します。元の保存先が故障した場合は、利用できる2つ目のコピーを使用してください。

バックアップのオプション

バックアッププランの画面で **その他のオプション** を開くと、履歴の保持期間やパスワードを設定したり、バックアップ後の検証を有効にしたりできます。形式と圧縮の設定では、ファイル名、バックアップ技術、除外項目、レポートも指定できます。

バックアップ履歴

バックアップ履歴をどのくらい保持しますか？ で、復元に利用できるバージョンを指定します。

選択肢	保持するバージョン
1週間	バックアップを実行した直近7日分の日次バージョン。
1か月	日次バージョン7日分と、バックアップを実行した直近4週分の週次バージョン。
3か月	上記の日次・週次バージョンと、バックアップを実行した直近3か月分の月次バージョン。
1年	上記の日次・週次バージョンと、バックアップを実行した直近12か月分の月次バージョン。
すべて保持	自動削除しません。保存先の空き容量はご自身で管理してください。
カスタム	日・週・月・年ごとの保持数、一定のバージョン数、または自動削除なしを指定できます。

履歴の期間には、実際にバックアップを実行した日、週、月を数えます。PCの電源を切っていた期間が長くても、それだけで履歴が消えることはありません。プリセットでは最新の3バージョンを必ず保持します。保持するバージョンの復元に必要な古いファイルも残るため、ディスク上のファイル数が指定した復元ポイント数を超えることがあります。

必要な容量の目安を参考に、保存先に収まる保持期間を選びます。表示された容量があらかじめ確保されるわけではありません。空き容量が少ない場合は、履歴を短くするか、別の保存先を選んでください。

バックアップの履歴を開くと、各バージョンを保持している理由と、削除の対象になるバージョンを確認できます。個別に無期限保持を指定することもできます。スケジュールされたバックアップが成功すると、メイン画面を閉じていても、バックグラウンドサービスが削除対象の古いバージョンを削除します。既存のプランには、設定を変更するまで従来の保持ルールが適用されます。

バックアップ方式

方式	保存する内容	復元に必要なファイル
完全	実行のたびに選択したデータをすべて保存します。	そのフルバックアップ。
増分	初回はフルバックアップを作成し、以後は直前のバックアップからの変更を保存します。	フルバックアップと、選択した時点までに必要なすべての増分バージョン。
差分	直近のフルバックアップからの変更を保存します。	フルバックアップと、選択した差分バージョン。

方式を自動にすると、定期的にフルバックアップを作成し、その間は増分バックアップを作成します。差分バックアップを利用する場合や、毎回フルバックアップを作成する場合は、**カスタム** で方式を指定します。

新しいフルバックアップの作成

方式が自動で保持期間が1週間の場合は、各週の最初の実行時にフルバックアップを作成します。それより長い期間のプリセットでは、各月の最初の実行時に作成します。この設定は、予定された各回で使用する方式を決めるもので、実行回数は増えません。

カスタム設定では、毎週、毎月、増分または差分バックアップを指定回数作成した後、または利用可能なフルバックアップが必要なときだけ、新たにフルバックアップを作成できます。スケジュールの曜日別の方式は、バックアップ方式を手動で指定した場合にのみ適用されます。

今回はフルバックアップを作成 を選ぶと、通常の方式を変更せずに、今回のみ新しいバックアップチェーンを開始します。バックアップ元を変更した場合や、前回のバックアップが利用できない場合にも、フルバックアップが必要になることがあります。理由はレポートに表示されます。

バックアップ技術

技術	内容
使用中のセクター	データのあるセクターをコピーします。通常のバックアップに適しています。
フォレンジック	未使用のセクターを含め、バックアップ元全体をコピーします。
ダイレクト・フォレンジック	ディスクから直接読み取ります。回復環境で利用できます。

フォレンジックイメージには、使用済み領域だけでなく、バックアップ元の容量全体に相当する空き領域が必要です。

バックアップ形式

O&O DiskImage形式 は、圧縮、暗号化、増分・差分バックアップなどの通常のオプションに対応しています。稼働中のWindowsシステムをバックアップする場合は、この形式を使用してください。

VHD と **VHDX** は、Microsoftの仮想ディスク形式です。O&O DiskImageでは、ディスク全体のバックアップと復元のほか、対応する仮想ディスクのマウント、検証、内容の参照ができます。Hyper-Vチェックポイント（`.avhd`、`.avhdx`）にも対応しています。チェックポイントと一緒に親ファイルも保管してください。

VHD/VHDXを作成する場合は、使用中のセクターのフルバックアップを作成します。O&Oの圧縮とパスワードによる暗号化は利用できません。バックアップ元のボリュームには排他的にアクセスできる必要があり、保存先には別の物理ディスクが必要です。稼働中のWindowsがインストールされているディスクはこの方法では保存できません。バックアップ元を使用中のアプリケーションを閉じるか、稼働中のバックアップにはO&O DiskImage形式を使用してください。選択したバックアップ元が適さない場合は、プラン画面に理由が表示されます。

圧縮

O&O DiskImage形式では、既定で圧縮が有効です。通常は標準のLempel-Zivが適しています。Lempel-Zivの最大圧縮またはBZIPを使用すると、時間はかかりますが容量をさらに節約できる場合があります。ZIP deflateはファイルバックアップ専用で、ディスクイメージには使用できません。VHD/VHDXにはこれらの圧縮設定は適用されません。

暗号化

初回のバックアップを作成する前にパスワードを設定してください。暗号化されたバックアップは元のパスワードがなければ復元できません。パスワードマネージャーなどの安全な場所に保管してください。

一度でもバージョンを保存すると、保存先がオフラインのときも、そのプランの暗号化、パスワード、イメージ形式、バックアップ技術、除外項目は変更できません。別の設定を使用するには新しいプランを作成します。履歴、圧縮、検証、レポート、命名テンプレートは引き続き変更できます。

保存したパスワードをアプリケーションから利用できなくなった場合は、プラン画面で元のパスワードを再入力してください。これはアクセスを回復する操作で、パスワード自体は変わりません。パスワードを再び利用できるまで、バックアップは実行できません。

検証

作成後の検証を有効にすると、バックアップの整合性と読み取りの可否を確認できます。検証ではバックアップを読み取るだけで、データを復元したりバックアップ元を変更したりすることはありません。所要時間は長くなります。実際に復元できるかどうかは、別途復元テストで確認してください。

既存のバックアップは **復元 > ユーティリティ** からも検証できます。回復パーティションも検証対象です。以前のバージョンにあった回復パーティションをスキップするオプションは廃止されました。

スケジュールと自動実行

プラン画面の **実行タイミング** で実行時期を選択します。新しいプランでは **自動（推奨）** が選択されています。保存先が外付けバックアップドライブの場合は、接続時に1日1回を上限として実行します。それ以外の保存先では、毎日18:00に実行し、予定時刻に実行できなかった場合は後から実行します。変更するには **編集…** を選択します。

手動で実行する場合は **手動で開始したときのみ** を選択します。自動実行するプランでも、**最初のバックアップを今すぐ実行** を選択すれば、スケジュールの保存と同時に初回のバックアップを開始できます。

スケジュールの種類

種類	動作
一度だけ	指定した日時に1回実行します。
毎日	指定した日数の間隔で、指定時刻に実行します。
毎週	指定した曜日に実行します。数週間ごとの間隔も指定できます。
毎月	毎月、開始日と同じ日に実行します。その日がない月は月末に実行します。
毎時	指定した時刻から、設定した間隔で実行します。
継続的	前回のバックアップが終了し、指定した間隔が経過すると、次のバックアップを開始します。
バックアップドライブが接続されたとき	指定したドライブが利用可能になると実行します。

同じプランには、日時に基づくスケジュールか、ドライブ接続時の実行のいずれかを設定します。開始日と終了日でスケジュールの有効期間を指定できます。

毎時または連続で実行する場合

高頻度のバックアップは、頻繁に変更される少量のデータに適しています。バックアップと2つ目のコピーの作成が完了するまでの時間を確保し、必要な容量の見積もりを確認します。短い間隔でフルバックアップを作成すると、保存先がすぐにいっぱいになることがあります。

ドライブの接続時に実行する場合

通知領域のアプリケーションが指定されたドライブを検出し、バックグラウンドサービスに実行を要求します。通知領域のアプリケーションは起動したままにしてください。終了している場合はプラン画面に警告が表示されます。

ドライブの識別には、ドライブ文字だけでなく、シリアル番号、ボリューム名、容量、モデルなど、取得できる情報を使用します。接続してから実行までの待ち時間と、前回の実行からの最短間隔を指定できます。

予定時刻に実行できなかった場合と、別の操作と重なった場合

スケジュールされた開始を逃した場合、できるだけ早くバックアップを実行する を有効にすると、予定時刻にPCを使用できなかった場合も後から実行します。外付けドライブへのバックアップは、そのドライブを再接続したときに実行できます。

ネットワーク上の保存先へのスケジュール済みバックアップは、保存先にアクセスできるまで最大3分間待機します。これにより、スリープ中のNASの復帰やネットワークの再接続を待つことができます。接続できないまま終了した場合は、失敗の理由をレポートで確認してください。

別のバックアップ、復元、クローンと競合するバックアップは、実行中の操作が終了するまで待機します。ただし、通知領域から手動で開始した場合は、理由を表示して開始を拒否することがあります。レポートには予定時刻と実際の開始時刻が別々に記録されます。

スリープからの復帰

スリープ状態のコンピューターを復帰させてこのバックアップを実行する は既定で無効です。必要に応じてスケジュールで有効にし、Windowsで使用中の電源プランでもスリープ解除タイマーを許可してください。
シャットダウン中または休止状態のPCは、このオプションでは起動できません。

バックアップと転送の間はPCがスリープしないように制御されます。画面を消灯してもよいかどうかは **設定 > 全般** で別途設定できます。

バックグラウンドサービスと通知領域

日時指定のスケジュールは、メイン画面を閉じていてもバックグラウンドサービスが実行します。通知領域のメニューには進行状況が表示されます。管理者は、メイン画面を管理者として開かなくても、プランを開始したり操作をキャンセルしたりできます。

アプリケーションとサービスのバージョンに互換性がない場合、スケジュールは一時停止し、更新方法が表示されます。サービスを更新するまでは、利用可能な場合に限りアプリケーションから手動バックアップを実行できます。

バックアップをキャンセルした場合や、通知領域のメニューから開始した場合は、完了後の自動シャットダウンは行われません。

ファイル名と除外項目

名前のテンプレートを使うとバックアップを整理しやすくなります。保存する必要がないデータは、除外項目に指定します。

ファイル名のテンプレート

プランで **形式、圧縮、検証、除外**（ファイルのプランでは **圧縮、検証、除外**）を開き、**ファイル名** を選択します。テンプレートには日付、時刻、ユーザー名、コンピューター名、拡張子を含めることができます。次に例を示します。

```
Backup_{Year}{Month}{Day}_{Hours}{Minutes}{Seconds}{Extension}
```

保存フォルダーのテンプレートにもプレースホルダーを使用できます。特にネットワーク共有では、短く分かりやすいフォルダー構成にしてください。アプリケーションの表示言語を変更しても、既存のプランのファイル名やフォルダー名は変わりません。

設定 > 新しいバックアップの既定値 > ファイル名 で指定した共通テンプレートは、新しいプランに適用されます。既存のプランが今後作成するファイルの名前を変更するには、そのプランを直接編集してください。

除外項目

バックアップオプションの **内容** を開くと、除外するファイルとフォルダーを確認できます。ファイルのフルパス、フォルダーのパス、`*.tmp` などのワイルドカード、`\System Volume Information\` などのパスの一部を指定できます。

一般的な一時ファイル、ページングファイル、休止状態ファイル、DiskImageのバックアップコンテナーは、該当する場合に除外されます。VHD/VHDXなどの仮想ディスクファイルは既定でバックアップに含まれますが、DiskImage自身が作成した仮想ディスク形式のバックアップは除外されます。ルールによってドライブ上のすべての仮想ディスクが除外されるという警告が表示された場合は、そのルールを確認してください。

フォルダーを除外すると、中のファイルも除外されます。除外したファイルはそのバックアップの復元画面に表示されず、そのバックアップから復元することはできません。

除外項目の変更

除外項目は初回のバックアップ前に指定します。一度でもバージョンを保存すると、保存先を取り外していても、プランの除外リストは変更できません。異なるリストを使う場合は新しいプランを作成してください。

バックアップファイルの保存先は、バックアップ元のフォルダーの外にしてください。PC全体のイメージからWindowsのシステムフォルダーを除外するのは、復元への影響を把握している場合に限ってください。

2つ目のコピー

2つ目のコピーを作成しておくと、元のバックアップを保存したドライブを失った場合にも復元できます。バックアップが成功すると、バックグラウンドサービスが別のドライブ、ネットワーク共有、S3互換ストレージ、またはWebDAVサーバーにコピーします。

2つ目のコピーの設定

1. バックアッププランを開き、**保存先** で2つ目のコピーのオプションを探します。
2. オプションを有効にして保存先を選択します。
3. ネットワークまたはクラウドに保存する場合は、接続設定を入力して **接続テスト** を実行します。
4. 必要に応じて、書き込み後にコピーを検証する設定を有効にします。
5. プランを保存するか、バックアップを開始します。

別の物理ディスクか、リモートの保存先を選択してください。同じディスクの別フォルダーにコピーしても、ディスクの故障には備えられません。元のバックアップと2つ目のコピーに同じフォルダーは指定できません。

バックグラウンドサービスが利用可能である必要があります。サービスのバージョンがS3またはWebDAVへのアップロードに対応していないと表示された場合は、サービスを更新してください。

クラウドへのコピー

まずローカルまたはネットワークのフォルダーにバックアップが作成され、その後、バックグラウンドでコピーがアップロードされます。進行状況はバックアップのカードとWindowsの通知領域に表示されます。S3へのアップロードは、接続が切れた後や、スリープまたは再起動の後でも再開できます。

S3の場合はエンドポイント、バケット、リージョン、アクセスキー、および必要に応じてパスのプレフィックスを指定します。WebDAVの場合はサーバーアドレス、フォルダー、認証情報を指定します。接続テストではアクセスと書き込みの権限を確認します。アップロードにはサービス経由でコンピューターのプロキシ設定が使用されます。サービス側のプロキシ設定が異なる場合は、画面での接続テストが成功してもアップロードできないことがあります。

インターネット経由の転送にはHTTPSを使用してください。リモートに保存するコピーもパスワードで保護する場合は、初回の実行前にバックアップの暗号化を設定してください。通信を暗号化するだけでは、保存されたバックアップは暗号化されません。

履歴と復元に必要なバージョン

コピーには、選択したバックアップを復元するために必要な以前のバージョンも含まれます。プランの保持ルールに従って古いバージョンが削除されると、2つ目の保存先からも該当するバージョンが削除されます。その保存先が取り外されていた場合、保留されていた削除は再接続後に実行されます。

2つ目のコピーにも同じ保持ルールが適用されます。このルールに関係なく特定のバージョンを残す必要がある場合は、別の保管用ストレージに保存してください。

コピーに失敗した場合

2つ目のコピーがありません は、元のバックアップは完了したものの、コピーが失敗またはキャンセルされたことを示します。元のバックアップからは引き続き復元できます。原因を確認し、保存先を再接続するか認証情報を修正して、**コピーを再試行** を選択してください。

コピーが完了するまでは保存先を取り外さないでください。

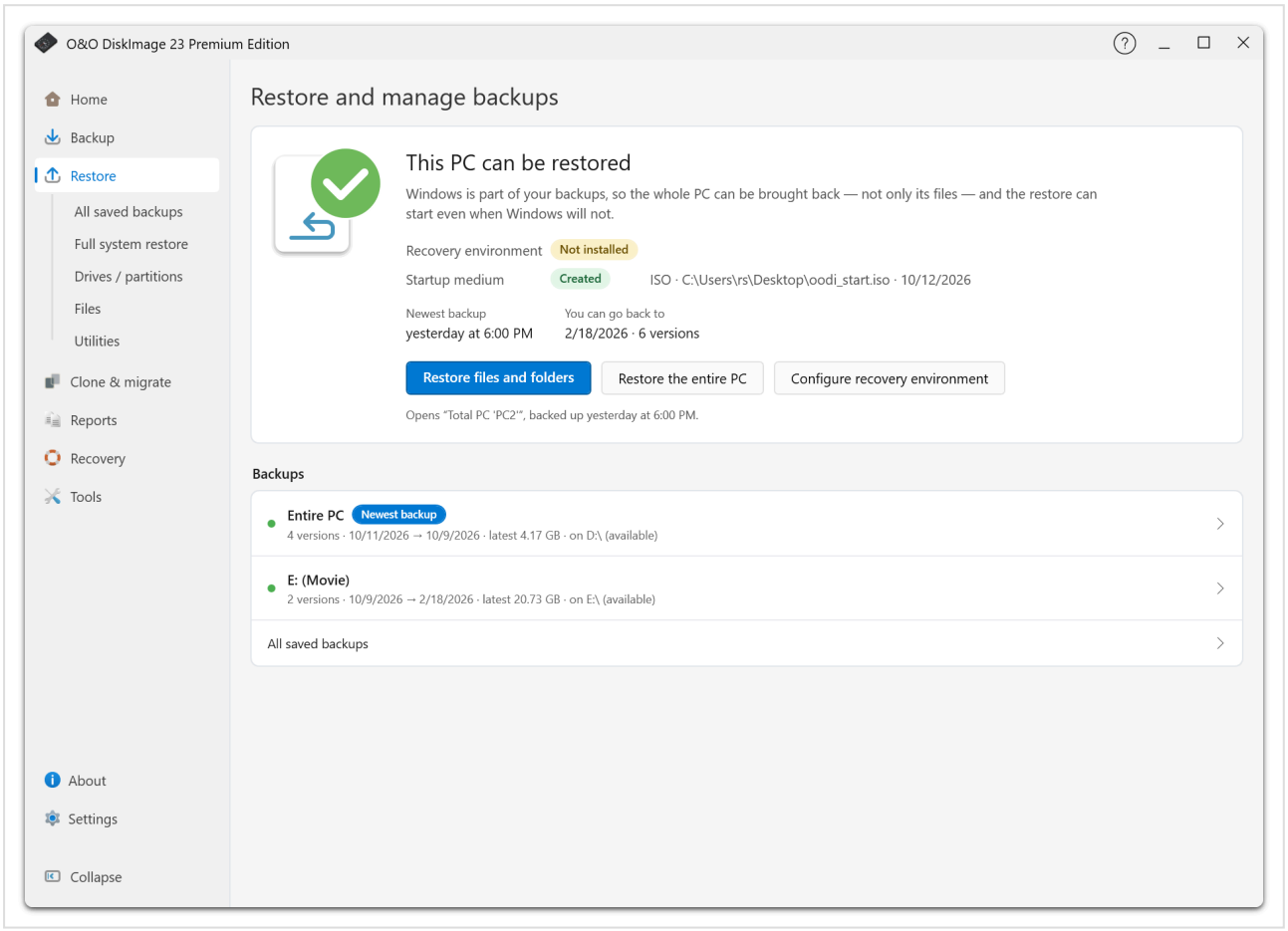
2つ目のコピーから復元する

保存済みのバックアップを開き、必要なバージョンを選択します。元のファイルにアクセスできない場合、O&O DiskImageは2つ目のコピーを利用できます。**2つ目のコピーから復元** を選ぶこともできます。

クラウドだけにあるバージョンは、復元前に、バックアップチェーンに必要なファイルと一緒にローカルにダウンロードされます。十分な空き容量と時間を確保し、暗号化されたバックアップの場合は元のパスワードを用意してください。

復元の概要

ファイル、パーティション、ディスク全体を復元するには **復元** を選択します。状態カードで、Windowsのバックアップと、復元時に利用できる起動方法を確認できます。



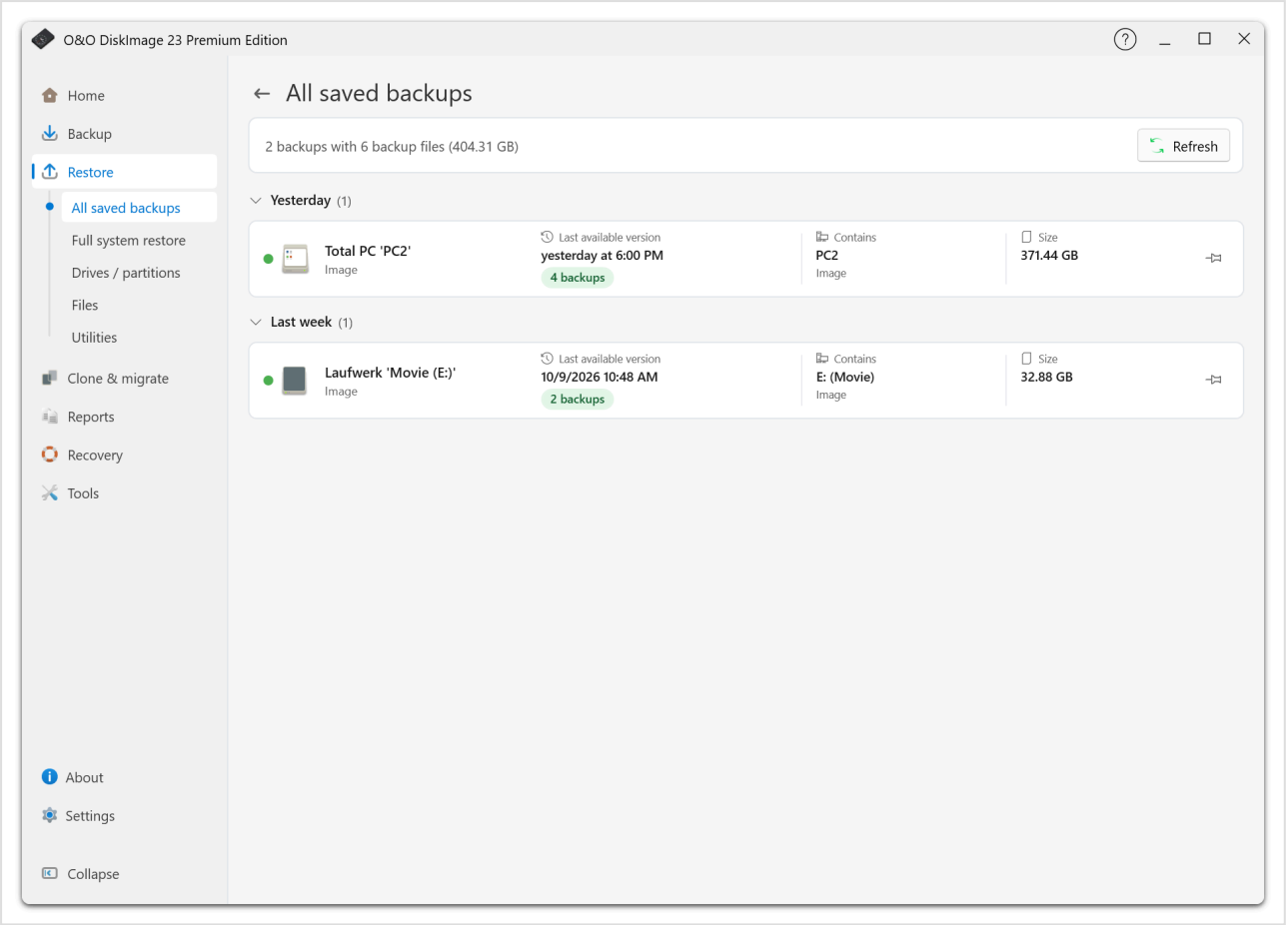
復元の概要画面には、利用可能なバックアップと、復元時に使用する起動方法の準備状況が表示されます。

バックアップを探す

概要画面の **ファイルとフォルダーを復元** を選ぶと、利用可能な最新のバックアップが直接開きます。古いバージョンや別のバックアップを選ぶ場合は、**保存済みのすべてのバックアップ** を開くか、ナビゲーションで該当するバックアップの種類を開きます。

保存先を取り外していても、バックアップは一覧に残ります。保存先を再接続するか、利用可能な 2つ目のコピー を使用してください。クラウドにしかないバージョンは復元前にダウンロードする必要があります。

一覧にない場合は、**復元 > ユーティリティ** の **既存のバックアップを追加** を選択します。フルバックアップと必要な増分または差分バックアップをアクセスできる場所に用意してください。



保存済みのバックアップは日付別にまとめられ、各項目に利用可能なバージョンが表示されます。

復元方法を選ぶ

方法	用途
ファイル	ファイルバックアップまたは対応するイメージから、選択したファイルやフォルダーを復元します。O&O DiskImageで作成したVHDバックアップにも対応します。
ドライブ / パーティション	選択したディスクまたはパーティションにイメージの内容を書き込みます。
バックアップをマウント	対応するイメージを読み取り専用ドライブとして開き、エクスプローラーでファイルを参照・コピーします。
システム全体の復元	ローカルの回復環境または起動メディアからWindowsを復元します。

開始前の確認

暗号化されたバックアップには元のパスワードが必要です。ファイルの復元では選択したフォルダーにある既存のファイルが上書きされる場合があります。ドライブの復元では、選択したディスクまたはパーティション

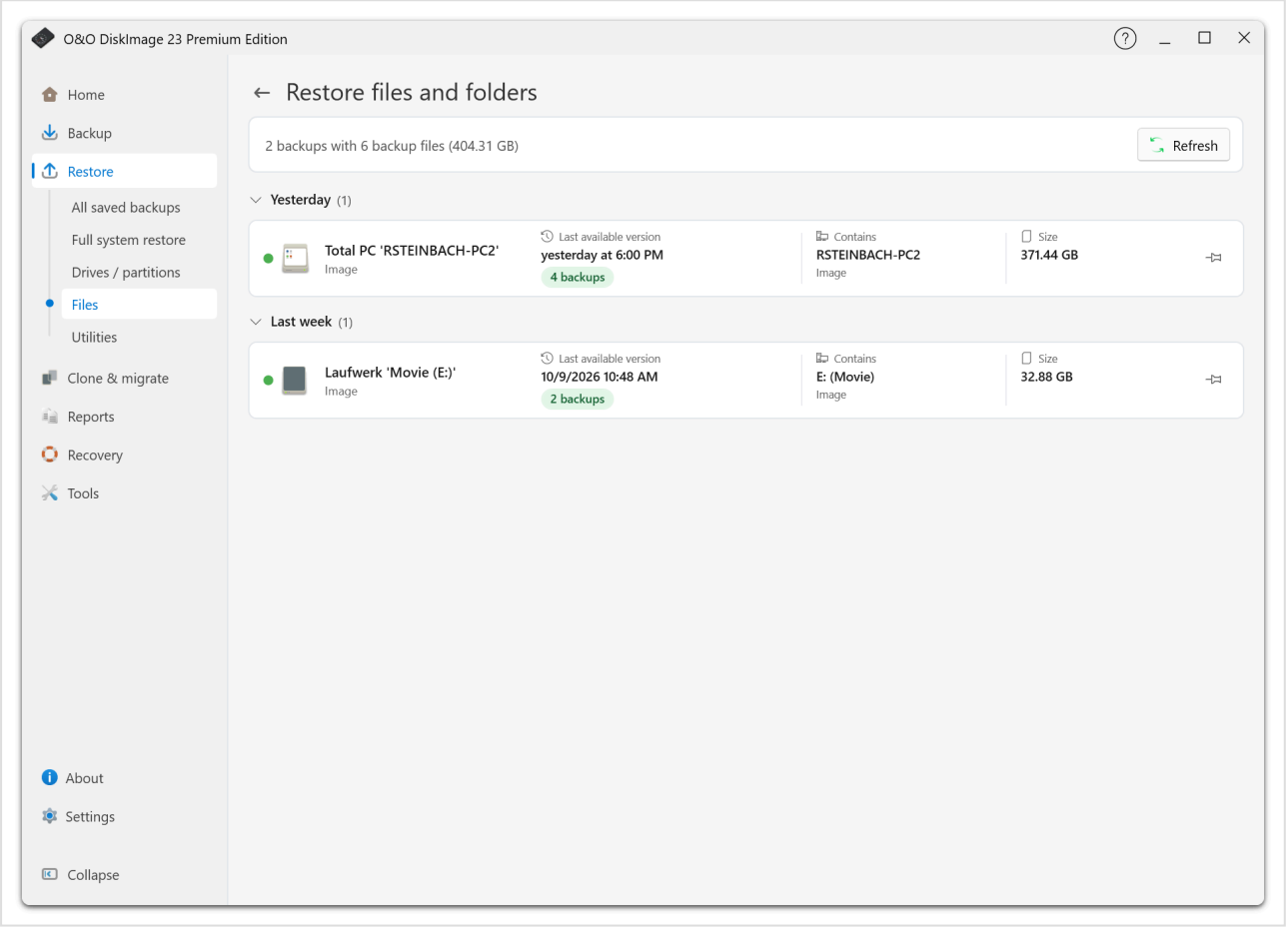
が上書きされます。

概要画面と確認画面で復元先を確認してください。元のイメージファイルを保存しているディスクを上書きすることはできません。そのディスクを特定できない場合は、確認できる別のディスクまたはネットワーク共有にファイルを移してからやり直してください。

稼働中のWindowsディスクを復元する場合は、**システム全体の復元** または復元先の選択画面の案内に従って再起動してください。ローカルの回復環境が利用できない場合は 起動メディア を使用します。

ファイルの復元

ファイルバックアップまたは対応するディスクイメージから、すべてのファイルを復元することも、必要なファイルやフォルダーだけを選んで復元することもできます。O&O DiskImageで作成したVHDバックアップからもファイルを復元できます。



一覧からファイルやフォルダーの復元元にするバックアップを選択します。

ファイルとフォルダーを復元する

1. **復元 > ファイル** を開くか、**保存済みのすべてのバックアップ** でバックアップを選び、ファイルの復元を選択します。
2. 必要なバージョンを選択します。
3. 求められた場合は、バックアップ作成時のパスワードを入力します。
4. 利用可能なファイルをすべて選ぶか、必要なフォルダーやファイルだけを選びます。
5. 復元先フォルダーを選び、設定の概要を確認します。
6. 復元を開始し、完了後に結果を確認します。

概要画面の **ファイルとフォルダーを復元** では、利用可能な最新のバックアップが直接開きます。別の日付に戻したい場合は、保存済みバックアップの一覧からバージョンを選択します。

表示されるのはバックアップに含まれているファイルだけです。除外したファイルやフォルダーをそのバックアップから復元することはできません。大きなイメージの場合、フォルダー構成の読み込みに時間がかかることがあります。

復元先のフォルダー

現在のファイルを置き換える前に内容を比較したい場合は、別のフォルダーに復元してください。元の場所に復元すると既存のファイルが上書きされることがあります。復元先と空き容量を事前に確認してください。

既定のフォルダー名のテンプレートは **設定 > 復元の既定値 > フォルダー名** にあります。進行状況の画面で実行中の操作を確認でき、必要に応じてキャンセルできます。完了後はレポートを確認し、必要な復元済みファイルを開いてください。

別のコピーから復元する

元のバックアップファイルを利用できない場合は、利用可能な2つ目のコピーを選択します。クラウドのコピーは、依存するファイルとともにダウンロードしてから復元します。2つ目のコピー を参照してください。

イメージをマウントする

対応するディスクイメージをマウントすると、Windowsのエクスプローラーから読み取り専用で参照し、個別にファイルをコピーできます。ファイルバックアップのコンテナーはマウントできません。

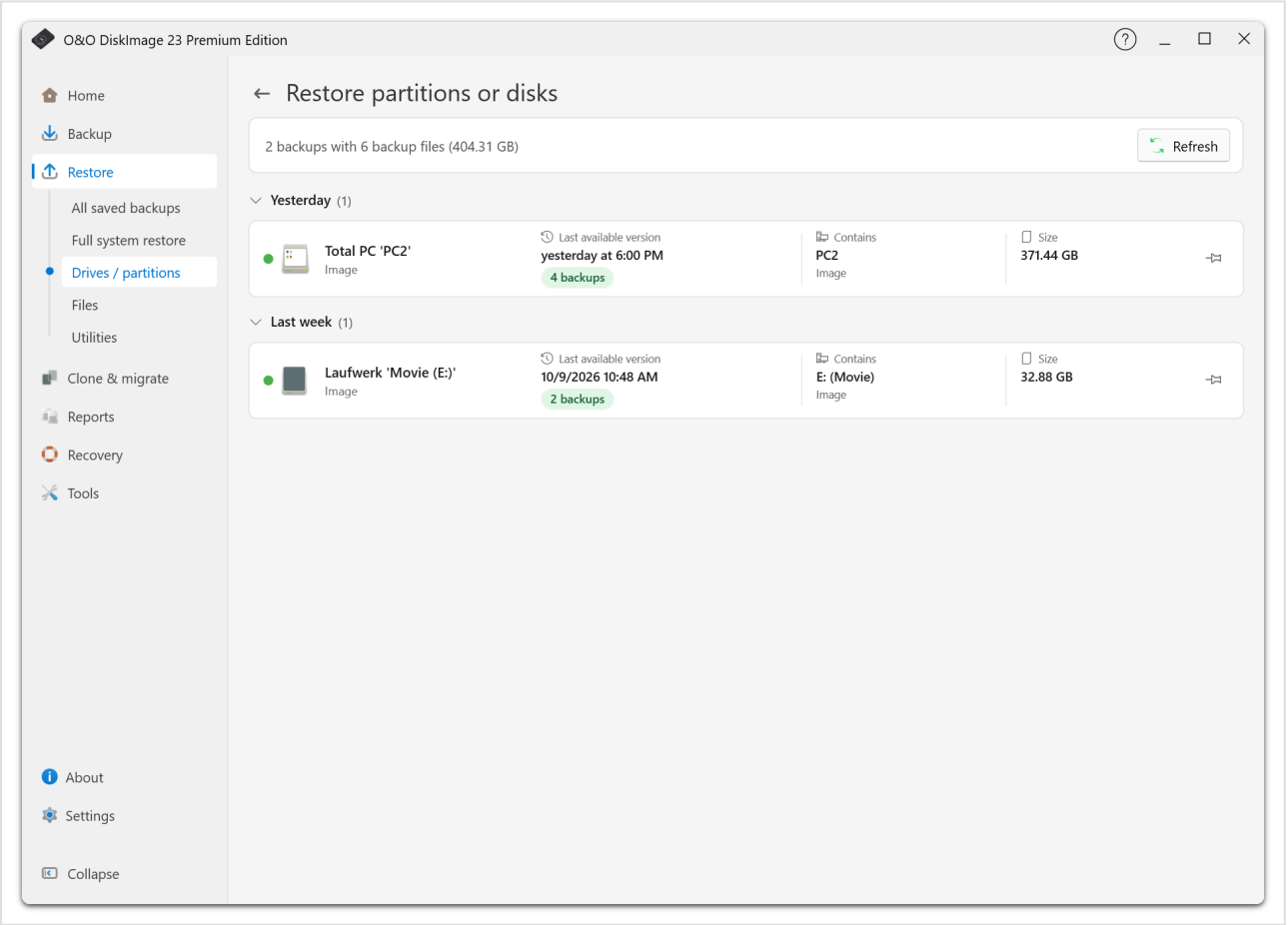
ドライブの復元

ドライブを復元すると、イメージのデータがディスクまたはパーティションに書き込まれます。選択した復元先にある既存のデータは上書きされます。

ディスクまたはパーティションを復元する

1. **復元 > ドライブ / パーティション** を開くか、保存済みのイメージを選び、ドライブの復元を選択します。
2. 復元するバージョンを選び、必要に応じてパスワードを入力します。
3. 復元元の各ディスクまたはパーティションに対して、目的の復元先を割り当てます。
4. 復元後のディスク構成と設定の概要を確認します。
5. 上書きに関する警告を確認し、問題がなければ復元を開始します。

フルバックアップと、必要なすべての増分または差分バックアップにアクセスできるようにしてください。対応する仮想ディスクやHyper-Vチェックポイントを使用する場合、依存する親ファイルも必要です。

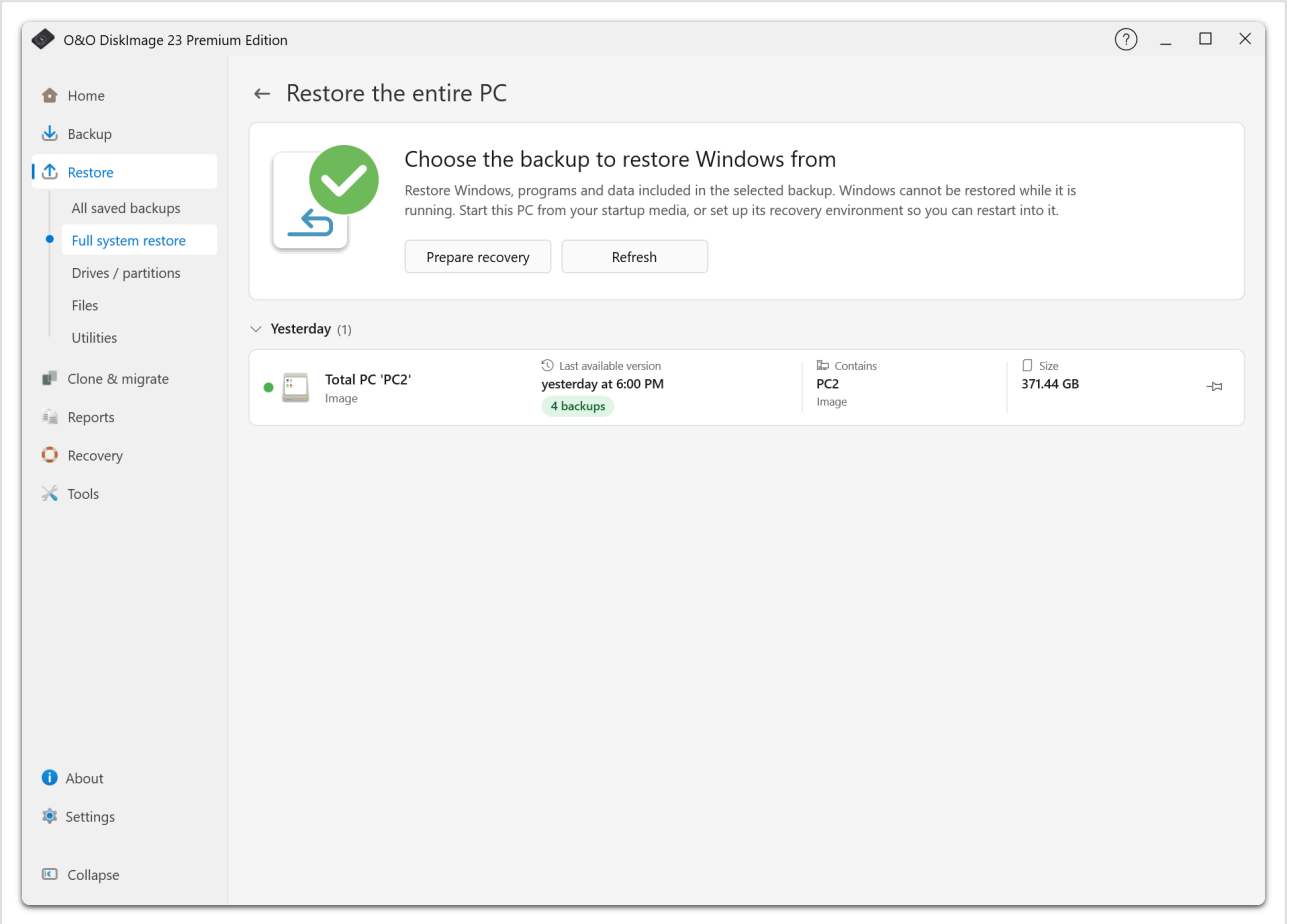


ドライブとパーティションの画面には、ディスクまたはパーティションの復元に使用できるバックアップが表示されます。

Windowsディスクを復元する

稼働中のWindowsがインストールされているディスクは、通常のWindows上で上書きできません。**システム全体の復元** を使用するか、そのディスクを選択したときに表示される案内に従って再起動してください。

ローカルの回復環境が準備できていれば、選択したバックアップを再起動後も引き継げる場合があります。回復環境を利用できない場合は起動メディアを使用します。復元を確定する前に、回復環境でバックアップと復元先をもう一度確認してください。



システム全体の復元画面には、利用可能なWindowsバックアップと回復環境を準備するための操作が表示されます。

復元先の容量の確認

復元先には、使用中のデータとファイルシステムに必要な領域を含め、イメージから計算された最小サイズ以上の容量が必要です。この条件を満たせば元より小さなパーティションにも復元できる場合がありますが、すべてのイメージや形式でできるとは限りません。

VHD/VHDXからディスク全体を復元する場合、復元先が仮想ディスクの容量要件を満たし、セクターサイズに互換性があることが必要です。元のイメージを保存しているディスクは復元先にできません。イメージの保存場所を確実に特定できないときは、先に別のディスクまたはネットワーク共有にコピーしてください。

アプリケーションは書き込み前に復元先のディスクを再確認します。選択後にディスクを交換または再接続した場合は、目的の復元先を確認して選び直してください。

復元せずにマウントする

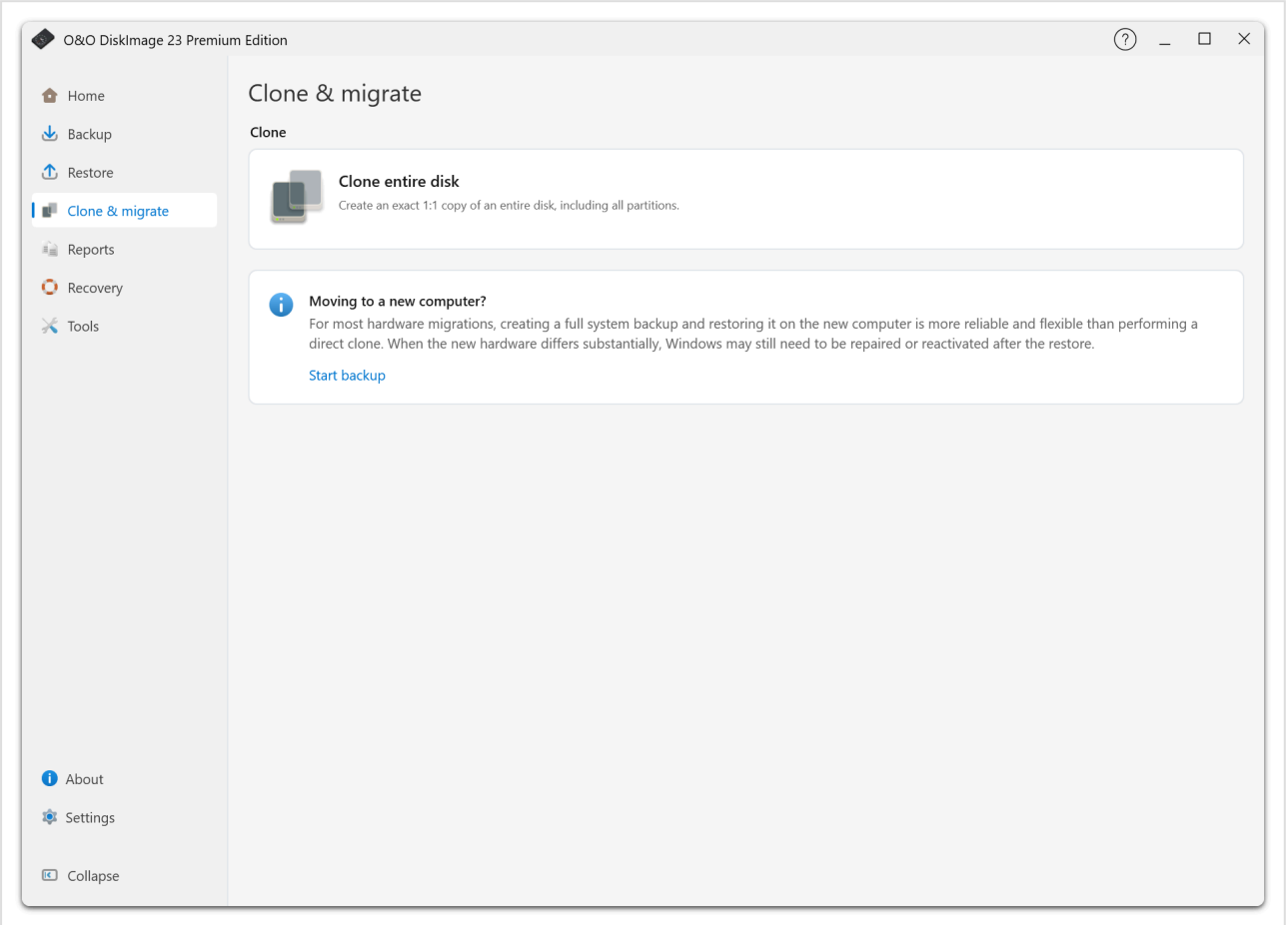
一部のファイルだけが必要な場合は、ファイルの復元を使用するか、対応するイメージを読み取り専用ドライブとしてマウントします。復元先全体を上書きせずにファイルを取り出せます。

復元後の確認

レポートと復元したデータを確認します。Windowsを復元した場合は、PCを再起動して正常に起動することを確認します。**リカバリ** を再度開き、ローカルの回復環境が復元時に上書きされていたら再作成してください。

ドライブのクローン

クローンは、元のディスクからコピー先のディスクに直接データを書き込みます。過去のバックアップ履歴は必要なく、別のドライブへ移行したい場合に使用します。



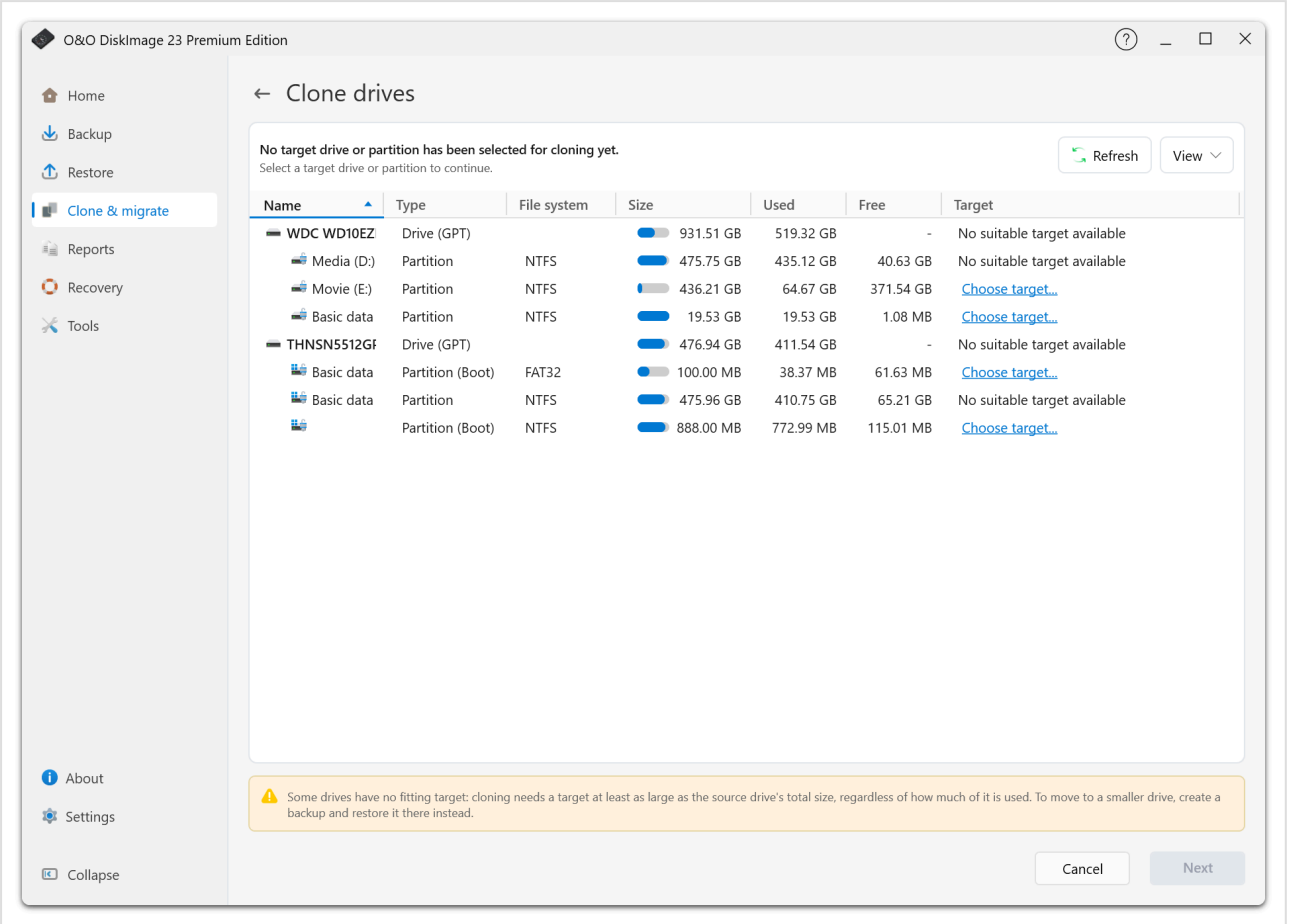
「クローンと移行」から、ディスクを直接コピーする操作を開始できます。

ディスクをクローンする

1. **クローンと移行 > クローン** を開きます。
2. コピー元のディスクを選択します。
3. コピー先のディスクを選択し、パーティションの構成を確認します。
4. 上書きに関する警告をよく確認してください。
5. クローンを開始し、終了したら結果を確認します。

選択したコピー先にある既存のデータは上書きされます。コピー先には、コピーするデータと指定した構成を収容できる容量が必要です。コピー元と同じディスクや、現在実行中のWindowsがインストールされているディスクは、コピー先に指定できません。

O&O DiskImageは書き込みの直前にコピー先のディスクを再確認します。選択後にディスクを交換または再接続した場合は、目的のコピー先を選び直し、再度確認してください。



ディスク一覧には、コピー元として選べるディスクと、適切なコピー先が利用可能かどうかが表示されます。

クローン技術

通常の移行には使用中のセクターのみのコピーが適しています。フォレンジック方式では未使用のセクターもコピーするため、元のディスク全体に相当する容量が必要です。

システムディスクのクローンが完了したら、ドライブを交換する前にPCをシャットダウンします。新しいディスクから正常に起動し、必要なデータがそろっていることを確認するまで、元のディスクを保管してください。

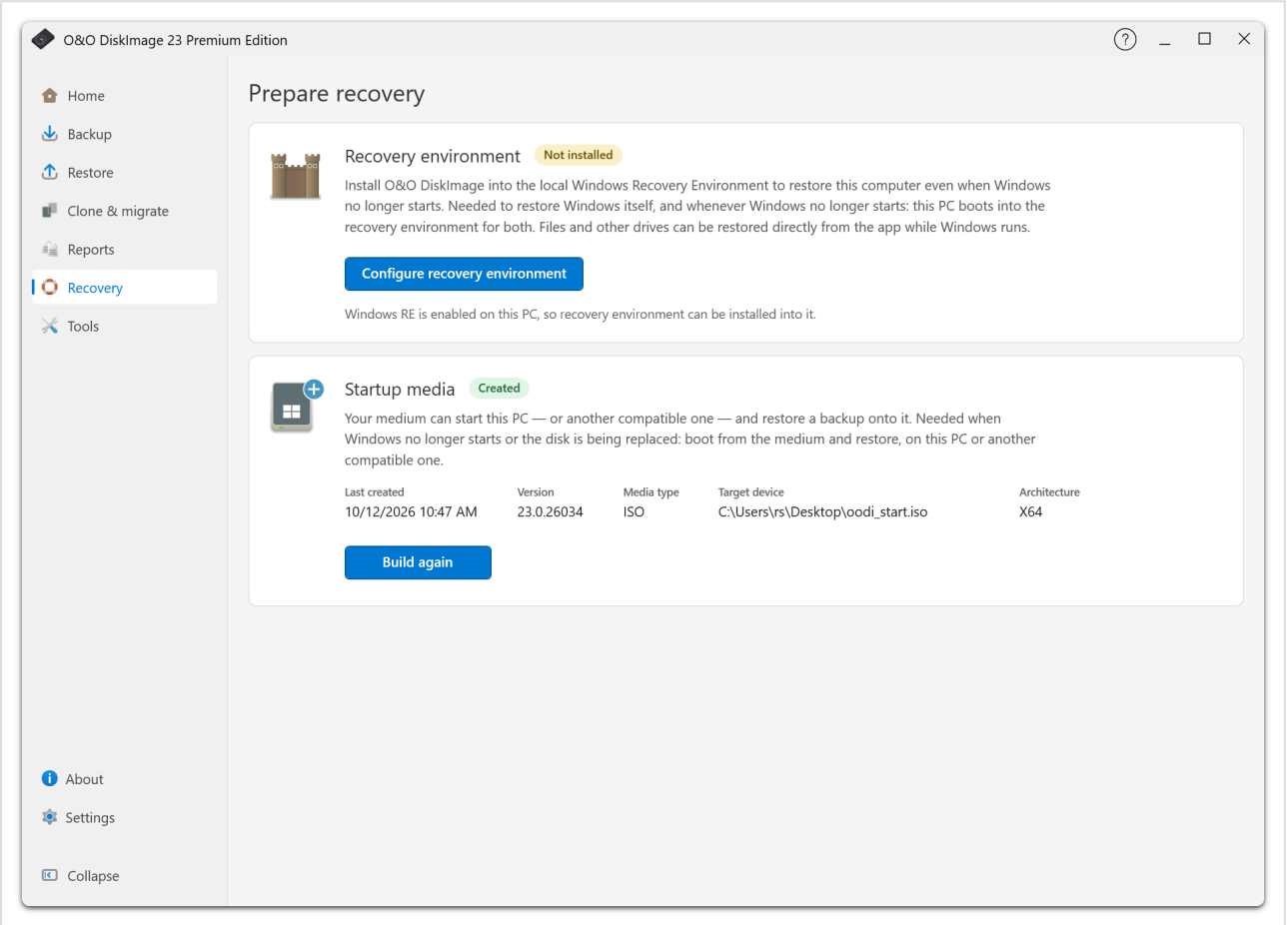
体験版と回復環境

体験版ではクローン機能に制限があります。クローン画面に制限の内容と、購入およびライセンス認証へのリンクが表示されます。

クローンの実行中にPCを再起動して回復環境に入らないでください。先に操作を完了するかキャンセルします。稼働中のWindowsのディスクをコピー先にする必要がある場合は、適切な回復環境から操作してください。

起動メディアと回復環境

リカバリ を開き、インストール済みのWindowsを起動せずにO&O DiskImageを実行する手段を準備します。この画面で、ローカルの回復環境と起動メディアが使用可能か、更新が必要かを確認できます。



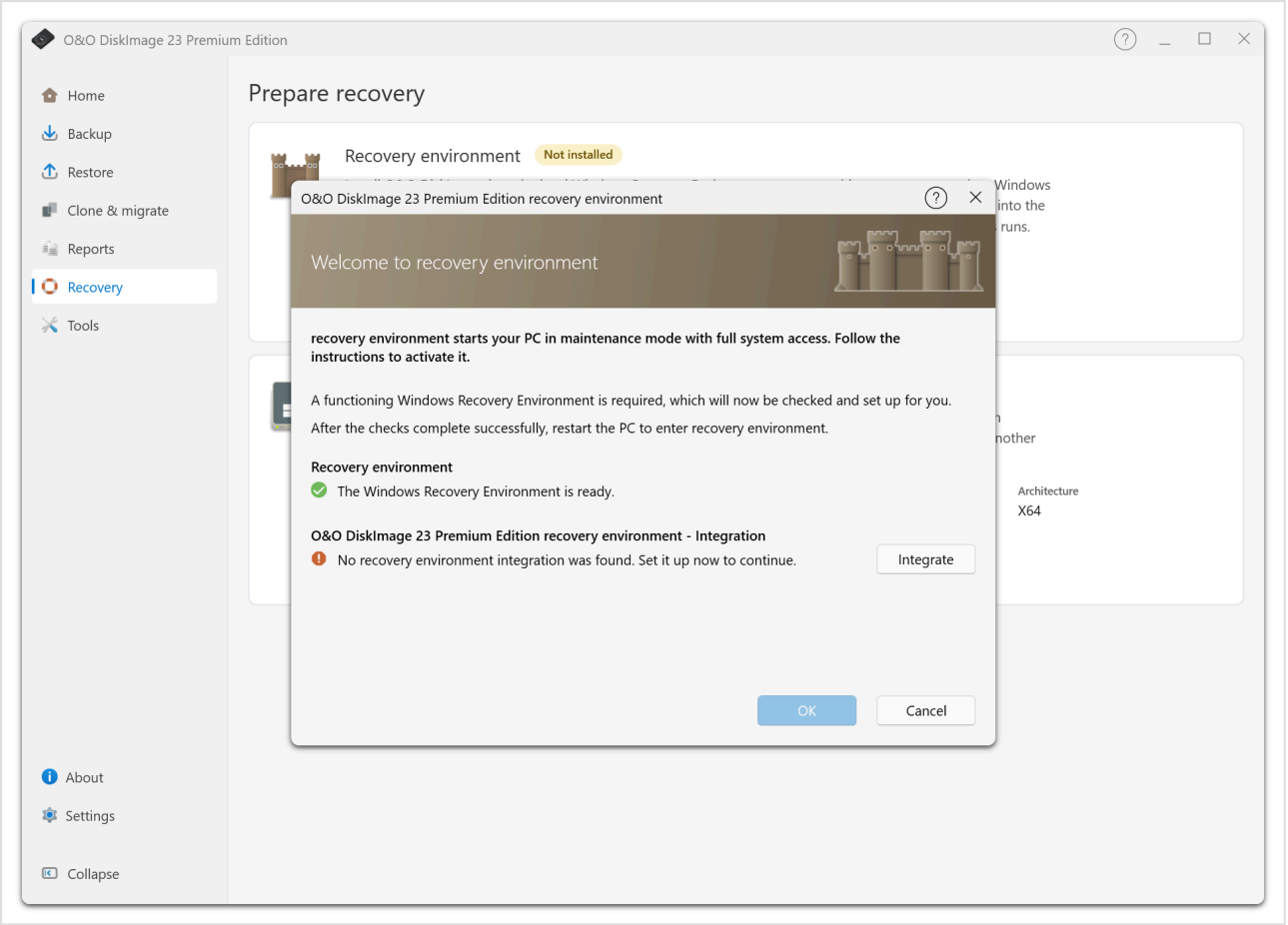
リカバリ画面には、ローカルの回復環境と起動メディアの状態が表示されます。

ローカルの回復環境

旧称 **Fortress Mode** は、現在 **回復環境** と呼ばれています。この機能はローカルのWindows回復環境（WinRE）にO&O DiskImageを組み込みます。別途USBメモリを用意しなくてもシステムを復元できます。

障害が発生する前に設定してください。ローカルの回復環境が正常に動作することが前提となるため、システムディスク自体の故障に備えて、別の起動メディアも用意しておくと安心です。

回復環境が古い、または利用できないと表示された場合は、画面の説明に従い、必要に応じて再作成してください。アプリケーションを更新した後や、復元によって回復環境が上書きされた後に、再作成が必要になることがあります。



セットアップ画面でWindows REの状態を確認し、O&O DiskImageを組み込むことができます。

再起動して回復環境に入る

システム全体の復元 を開いたときや、稼働中のWindowsディスクを復元先に選んだときは、準備済みの回復環境で再起動するよう案内されます。可能な場合、選択したバックアップは回復環境に引き継がれます。

再起動を確定する前に作業を保存してください。バックアップ、復元、クローンの実行中は再起動できません。再起動したら、バックアップの保存先を再接続し、必要に応じてパスワードを入力して、復元を始める前にもう一度復元先を確認します。再起動しただけでディスクへの上書きが許可されることはありません。

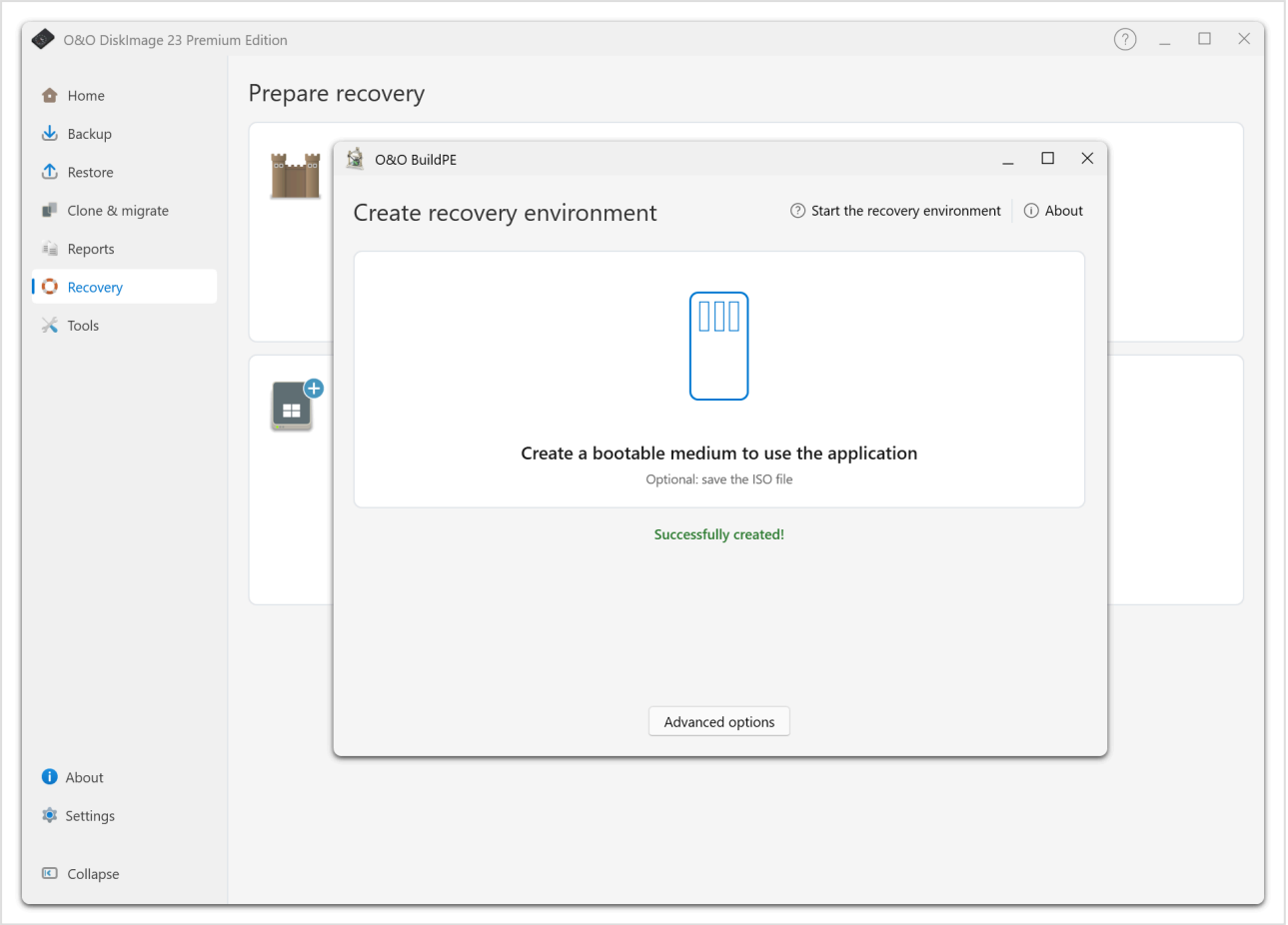
ローカルの回復環境を利用できない場合は、復元画面の案内に従って起動メディアを使用してください。

起動可能な救出メディア

起動メディアの画面から、起動用USBメモリまたはISOイメージを作成できます。ローカルの回復環境が利用できない場合やシステムディスクを交換する場合は、別途用意した起動メディアを使用してください。

作成ツールは、稼働中のWindowsシステムディスクを候補から除外し、検出したドライブの種類を表示します。選択したUSBデバイスをよく確認してください。標準の作成手順では、確認後にデバイスがフォーマットされます。唯一のバックアップが入ったドライブは選択しないでください。

対象のPCがメディアから起動できることと、起動後にバックアップにアクセスできることをテストしてください。起動そのものに加え、ストレージとネットワークへのアクセスも確認します。



作成ツールに、起動可能な回復メディアが正常に作成されたことを示す確認が表示されます。

回復環境での操作

ドライブ文字は通常のWindowsと異なる場合があります。ディスクの識別情報、容量、内容を確認して、復元元と復元先を特定してください。

暗号化されたバックアップには元のパスワードが必要です。ライセンスの確認にインターネット接続が必要な場合は、可能であれば有線ネットワークを使用してください。

Windowsを復元したら、回復環境の状態を再確認します。ローカルの回復環境が上書きされた場合は、次の復元で使用する前に再作成してください。

バックアッププランと保存済みのバックアップ

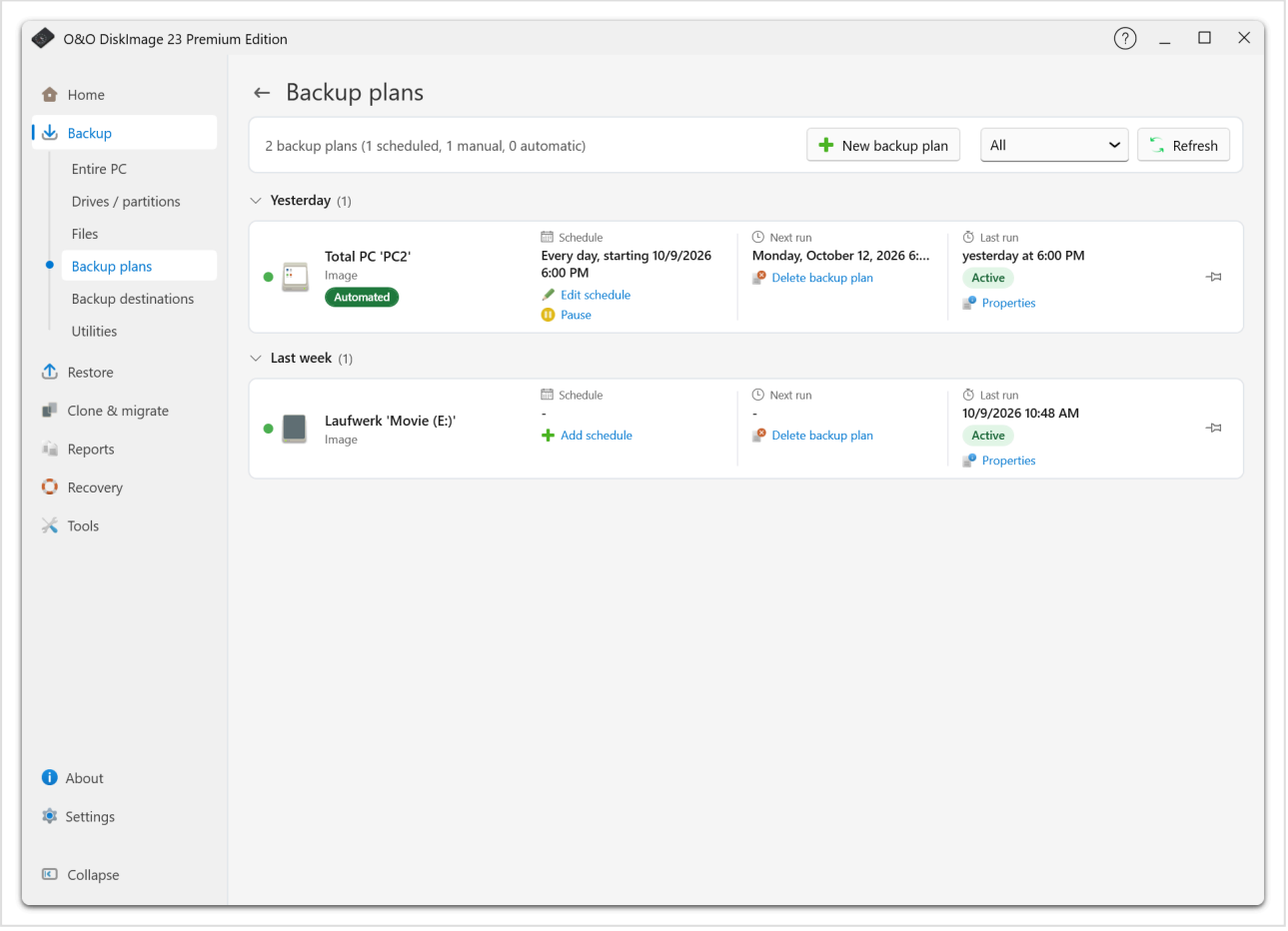
プラン は、対象、保存先、スケジュール、オプションをまとめた設定です。**バックアップセット** は、その設定と保存済みのバージョンをひとまとめにしたものです。**実行** はプランを1回動作させることを指し、その結果とレポートで何が行われたかを確認できます。

バックアッププラン

バックアップ のプラン一覧では、プランの作成、既存のプランの実行、設定の変更ができます。初回実行前のプランも表示されます。まだバックアップのない新しいプランは **今日** に表示されます。

カードの **プロパティ** からプラン画面を開けます。プラン名、スケジュール、履歴、対象のドライブやファイルを変更できます。対象を変更すると、次回はフルバックアップになります。画面でキャンセルすると編集内容は破棄されます。

保存済みのバージョンがある場合は、保存先がオフラインであっても、形式、バックアップ技術、除外項目、暗号化は変更できません。別の設定を使うには新しいプランを作成してください。



プラン一覧にはスケジュール、前回と次回の実行情報のほか、バックアップの編集・開始用の操作が表示されます。

バックアップを開始する

既存のプランをすぐに実行するには **今すぐバックアップ** を選択します。独立した新しいチェーンを開始するには、ホーム、プラン画面、または通知領域のメニューで、今回だけフルバックアップを作成する操作を選びます。その次からはプランで設定した通常の方式に戻ります。

手動のバックアップだけでなく、スケジュール実行やドライブ接続時のバックアップでも、アプリケーションで進行状況を確認したりキャンセルしたりできます。

保存済みのバックアップ

復元 > 保存済みのすべてのバックアップ を開くと、バージョンを選んで復元したり、情報を確認したり、ファイルを管理したりできます。履歴には保持理由と削除予定が表示されます。個別に無期限保持を指定することもできます。

保存先が利用できない状態と、ファイルが見つからない状態は区別して表示されます。保存先が取り外されている場合は再接続してください。本当にファイルが削除されている場合は、その項目が不要になってから一覧から削除します。2つ目のコピー が残っていれば、そのバージョンはまだ復元できます。

バックアップの移動と削除

プランに記録された場所と実際のファイルの場所が一致するよう、移動・削除にはアプリケーションの機能を使用します。どちらの操作でも進行状況が表示され、キャンセルできます。キャンセル時点ですでに処理済みのファイルがある場合は、結果を確認してください。

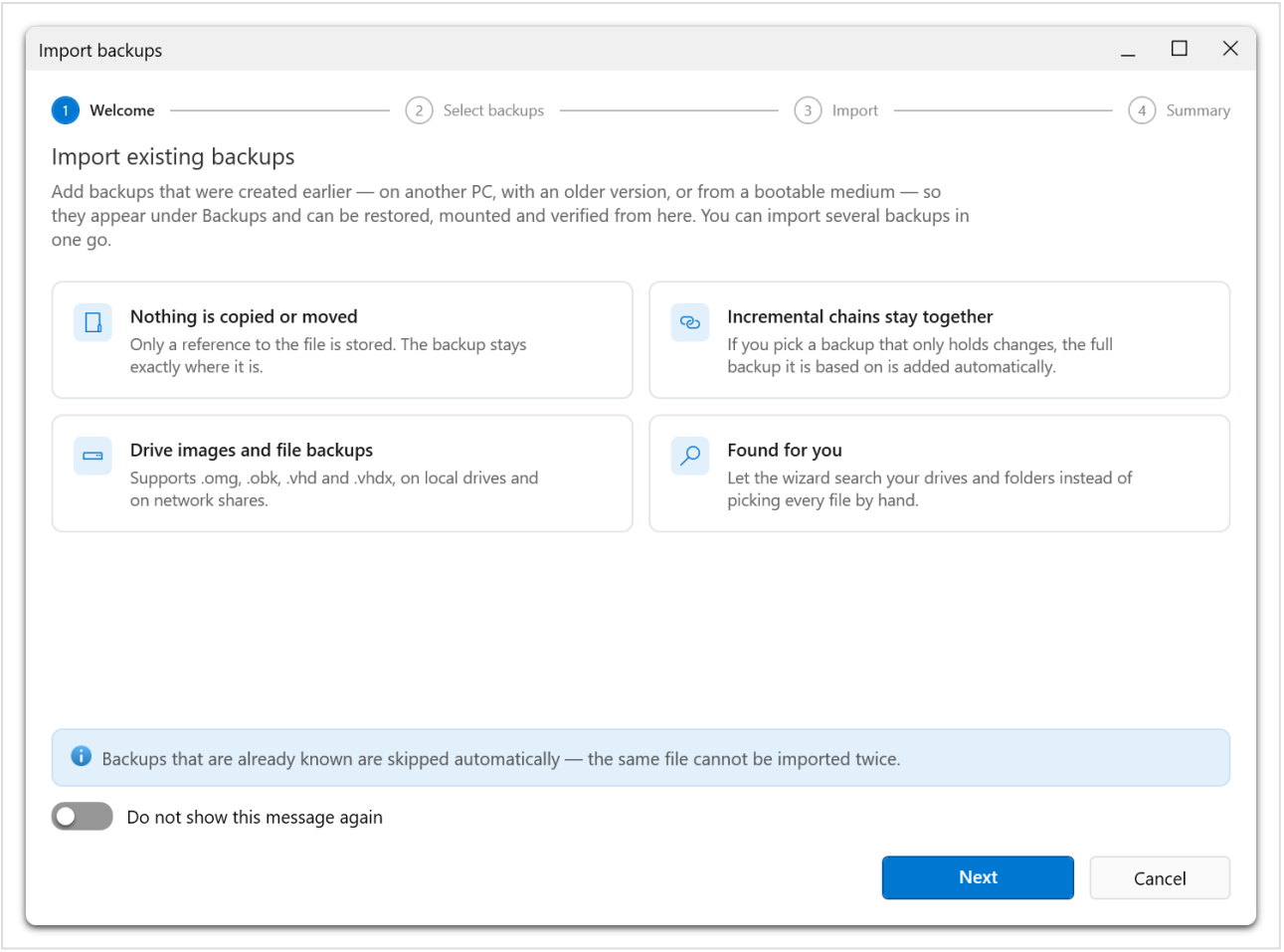
削除したファイルは元に戻せません。過去のバックアップを削除すると、それに依存する後続のバージョンにも影響します。エクスプローラーでチェーンの一部を個別に削除せず、アプリケーションの確認画面をよく確認してください。

プランの削除と、保存済みのファイルの削除は別の操作です。どの情報やファイルが残るか、確認画面を読んでから進めてください。

既存のバックアップを追加する

以前のインポート機能は、現在 **既存のバックアップを追加** と表示されます。**バックアップ > ユーティリティ**、**復元 > ユーティリティ**、または **ツール** から開けます。

バックアップファイルを選択し、ウィザードで情報を確認します。O&O DiskImageが保存済みバックアップの一覧に追加します。そのバージョンに必要なフルバックアップと増分バックアップは、まとめてアクセスできる場所に保管してください。



既存のバックアップを追加するウィザードでは、取り込みの流れと関連するバックアップファイルの扱いが説明されます。

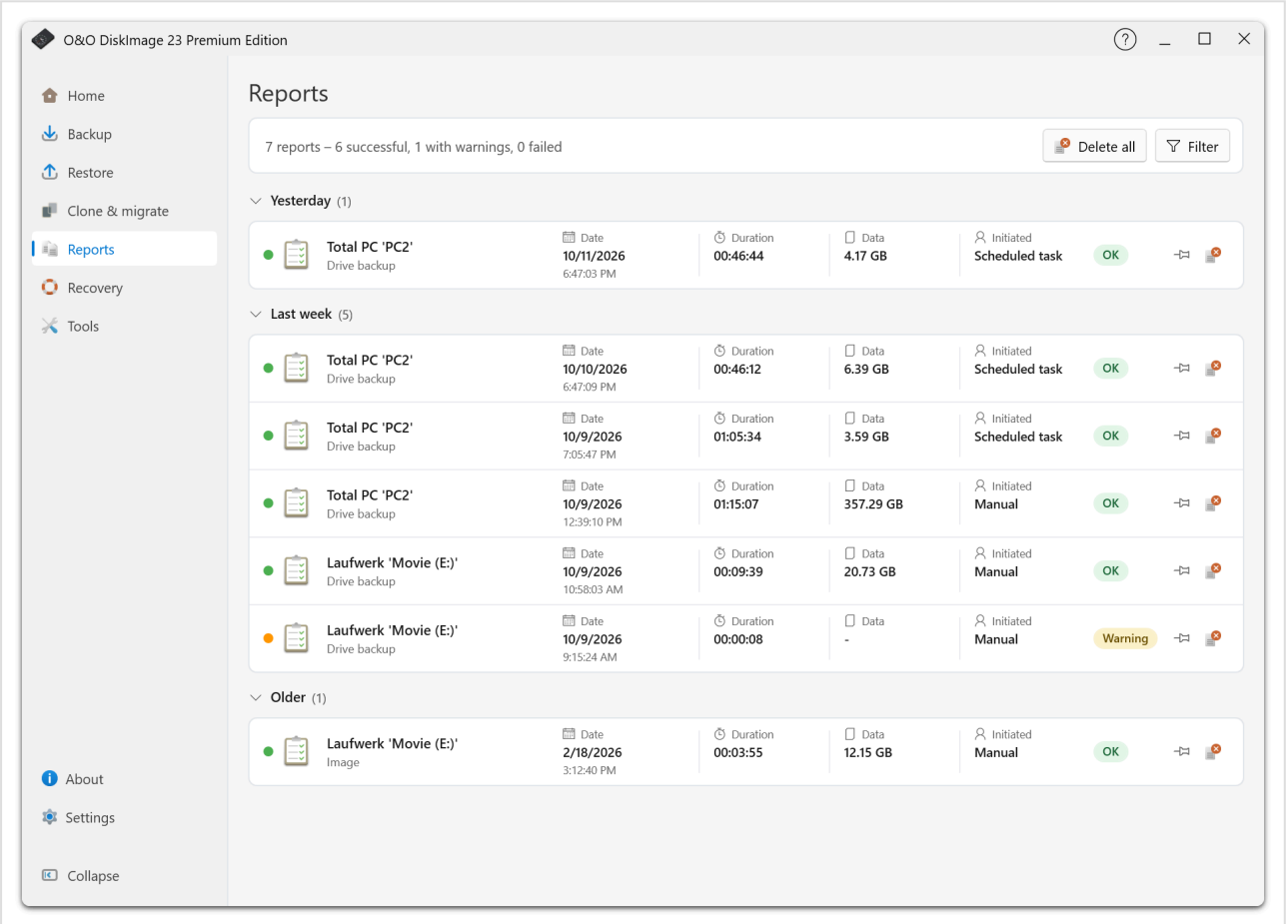
レポートとログ

レポートには各操作の結果が記録されます。問題の原因をさらに詳しく調べる場合は、ログを使用します。

レポート

レポート作成が有効な場合、O&O DiskImageは対象、保存先、方式、データ量、所要時間、結果、警告やエラーを記録します。スケジュール実行では予定時刻と実際の開始時刻も区別して表示されます。

レポート では、詳細の確認、テキストエディターでの表示、コピーの保存、レポートの削除ができます。レポートを削除しても、対応するバックアップは削除されません。



レポートの一覧には、完了した操作ごとに日付、所要時間、データ量、結果が表示されます。

実行結果

状態	意味
成功	問題は報告されず、操作が正常に完了しました。
警告付きで完了	結果に注意が必要です。警告の内容を確認してください。
失敗	操作は正常に完了しませんでした。バックアップのバージョンが作成されていないこともあります。
キャンセルされました	完了する前に操作が中止されました。

増分または差分の予定がフルバックアップに変わった場合は、レポートで理由を確認できます。たとえば、履歴で指定したフルバックアップの時期に達した、対象が変更された、以前のバージョンが利用できない、といった理由があります。スケジュール実行では、この理由は通知領域にも表示されます。

2つ目のコピーがありません は、元のバックアップは利用できるものの、コピーが失敗またはキャンセルされたことを示します。保存先の問題を解決し、**コピーを再試行** を選択してください。元のバックアップ完了後も、アップロードが続いている場合があります。

レポートには適用中の履歴設定と削除されたバージョンが表示されます。PC全体のバックアップのレポートには、対象から除外された保存先ディスクも記載されます。

ログ

アプリケーションログは動作中のイベントを記録します。エンジンログはイメージ処理の詳細を記録し、サポートによる調査に使用します。**設定 > ロギング** で設定してください。変更の反映に再起動が必要な場合があります。

回復環境では、上書きされるボリューム以外の場所にログが保存されます。操作が失敗すると、アプリケーションはバックアップと同じ場所にログをコピーしようとします。コピーされていれば再起動後も調べることができます。

メール通知

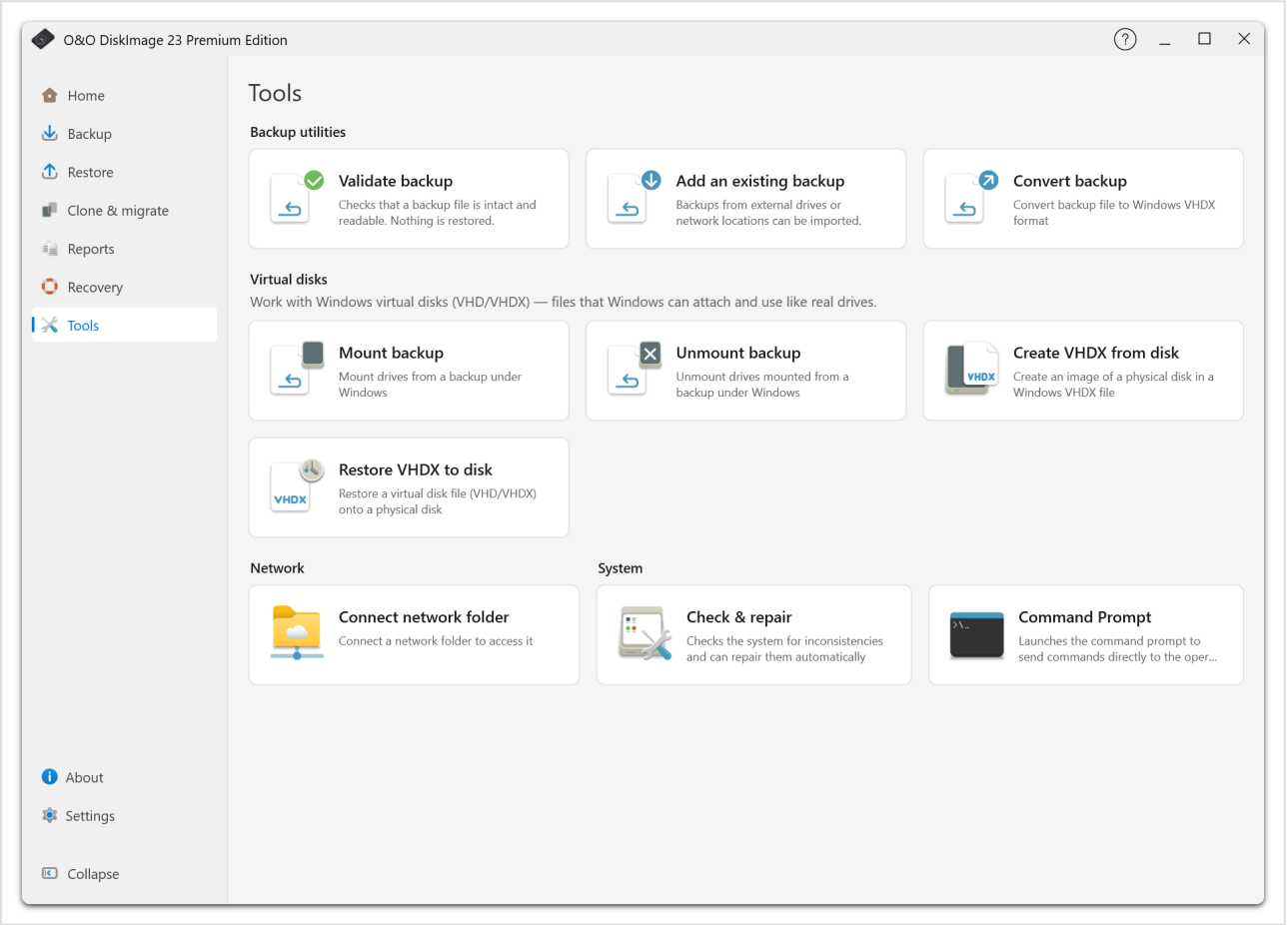
設定 > 通知 でメール通知を設定し、テストメールを送信します。メールはバックグラウンドサービスが送信します。無人実行での失敗も通知されます。成功時の通知は任意です。

サポートへの連絡

製品とWindowsのバージョン、失敗した操作のレポート、対象と保存先の種類、手動・スケジュール・ドライブ接続時のどの方法で実行したかをお知らせください。通常のWindowsと回復環境のどちらで発生したかも記載し、求められた場合はログを添付してください。

ツール

各種ツールは **ツール** から、または **バックアップ** や **復元** の **ユーティリティ** から開けます。

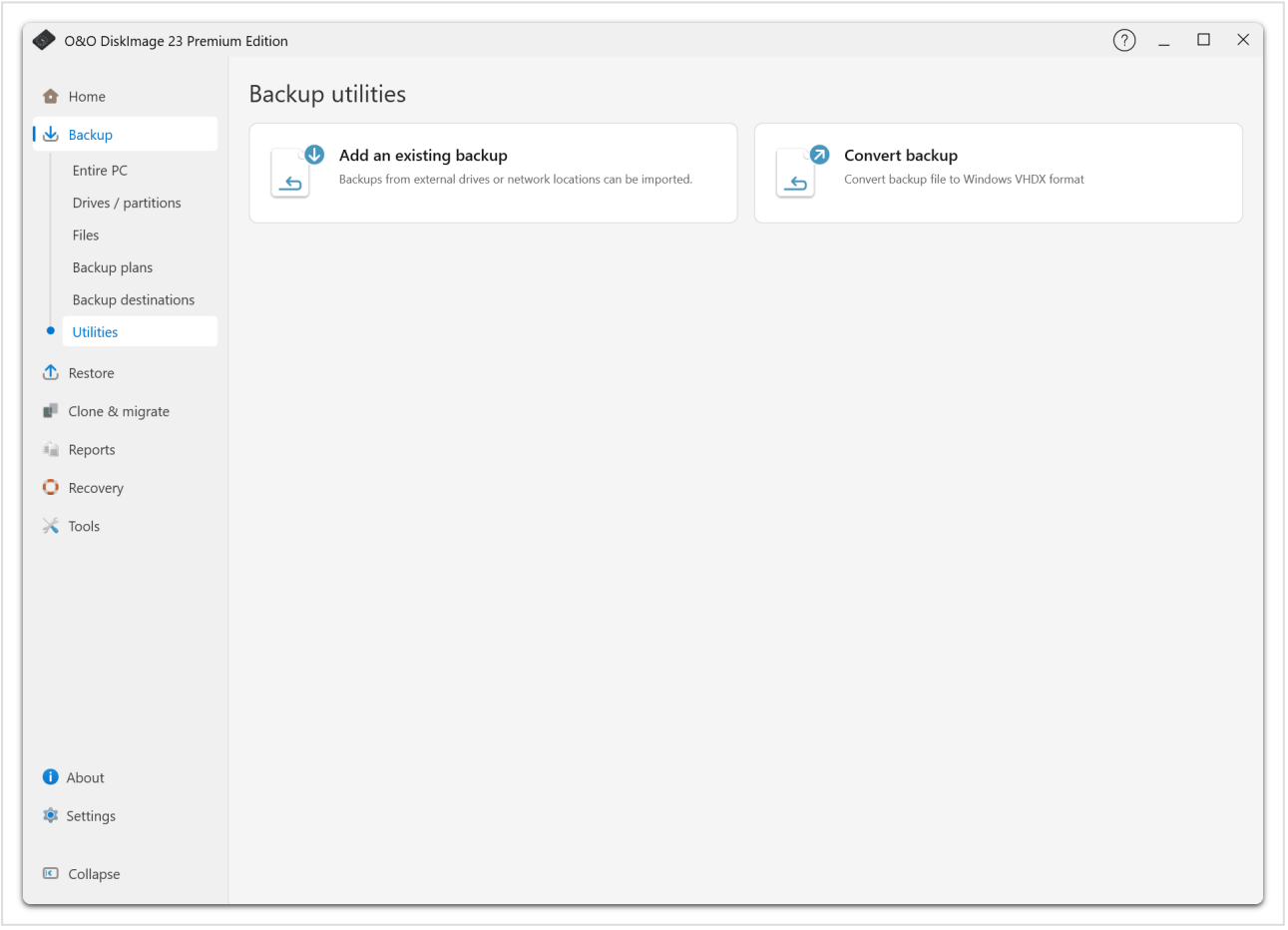


ツールの概要画面では、バックアップ、仮想ディスク、ネットワーク、システムの機能が用途別にまとめられています。

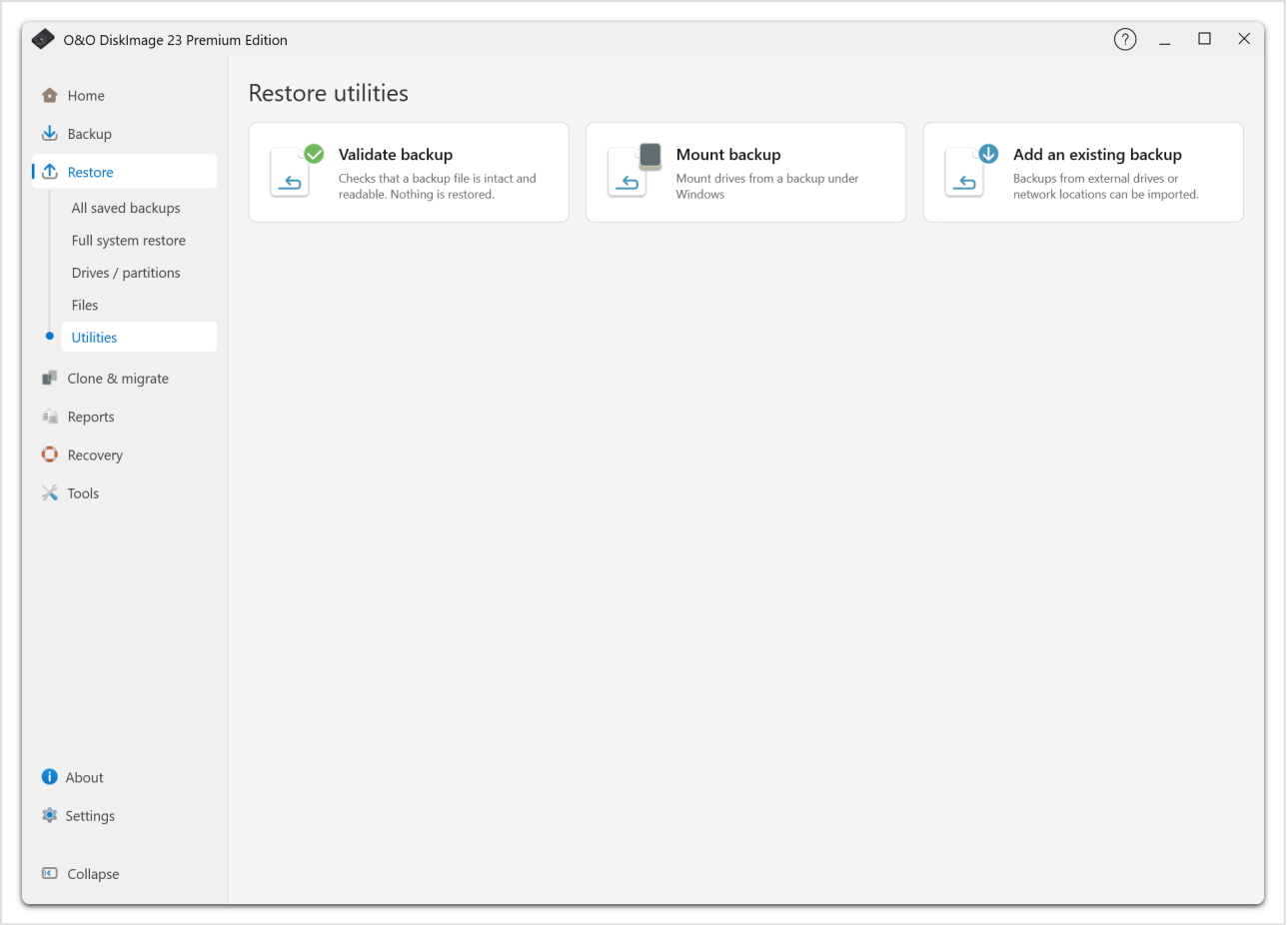
ツールの場所

場所	できること
バックアップ > ユーティリティ	既存のバックアップを追加する、バックアップをVHDXに変換する。
復元 > ユーティリティ	バックアップを検証する、マウントする、既存のバックアップを追加する。
ツール > バックアップユーティリティ	バックアップを検証する、既存のバックアップを追加する、バックアップを変換する。
ツール > 仮想ディスク	バックアップをマウント・マウント解除する、ディスクからVHDXを作成する、VHDXをディスクに復元する。
ツール > ネットワーク	ネットワークフォルダーに接続する。
ツール > システム	チェックと修復を実行する、コマンドプロンプトを開く。

体験版では一部のツールに制限があります。該当する画面に制限の内容と、ライセンスの購入・認証用リンクが表示されます。回復環境で利用できないツールは表示されません。



バックアップのユーティリティでは、既存のバックアップの追加や、VHDXへの変換ができます。

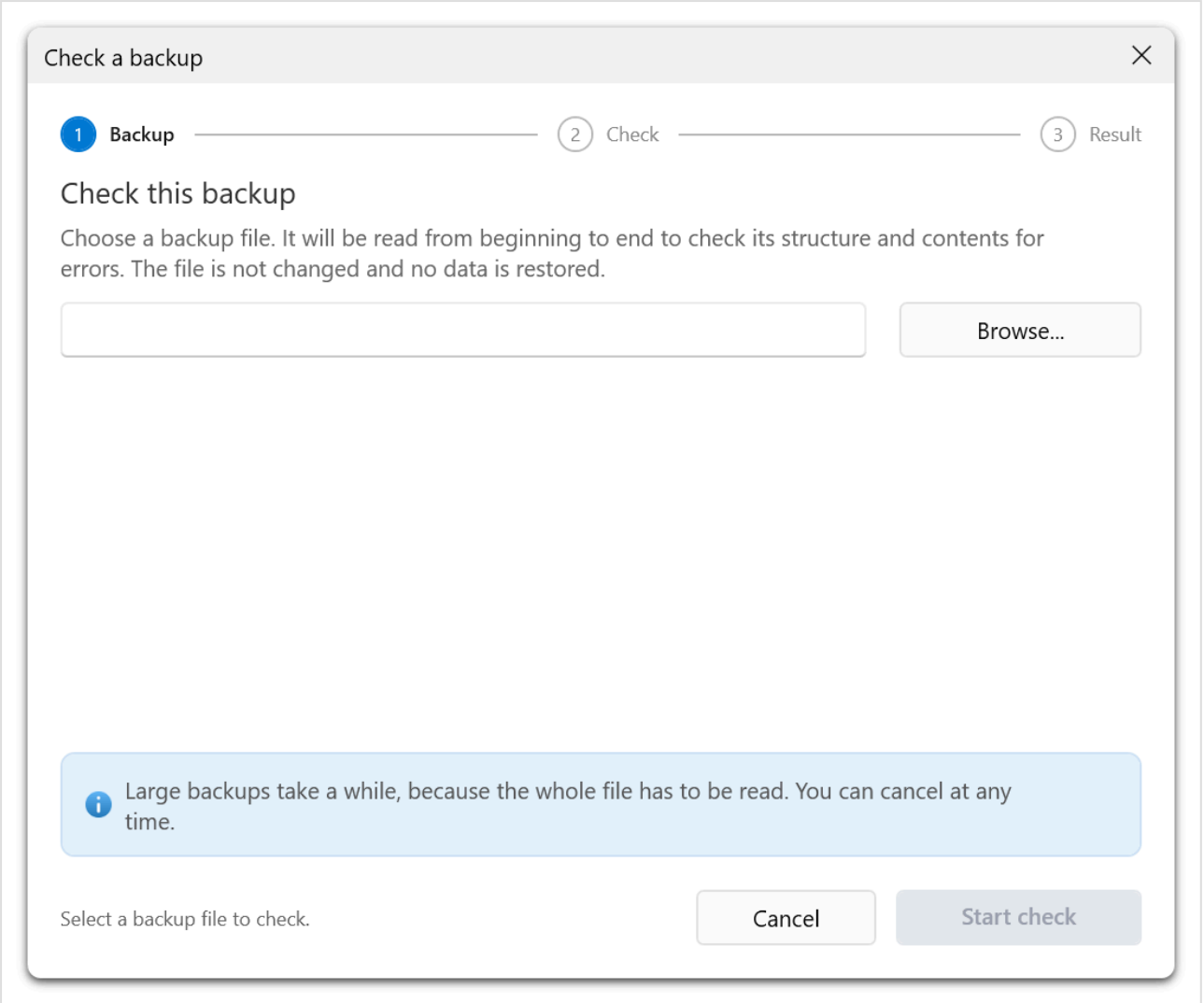


復元のユーティリティでは、バックアップの検証、マウント、追加ができます。

バックアップの検証

検証ウィザードはバックアップを読み取り、整合性と読み取りの可否を確認します。ファイルの変更やデータの復元は行いません。対象ファイルを選択し、必要に応じてパスワードを入力して検証を開始し、結果を確認します。

キャンセルした場合、まだ読み取っていない部分は検証されていません。検証が失敗した場合は別の利用可能なコピーを確保し、そのバックアップを復元に使用する前に、保存先やファイルの問題を調べてください。



検証ウィザードで整合性を確認するバックアップファイルを選択します。

既存のバックアップの追加

以前の **バックアップをインポート** に相当する機能です。ウィザードは選択したファイルの情報を読み取り、保存済みバックアップの一覧に追加します。バックアッププランと保存済みのバックアップ を参照してください。

バックアップのマウントとマウント解除

対応するイメージをマウントすると、読み取り専用のWindowsドライブとして開き、ファイルを参照・コピーできます。ファイルバックアップのコンテナーはマウントできないため、ファイルの復元 を使用してください。

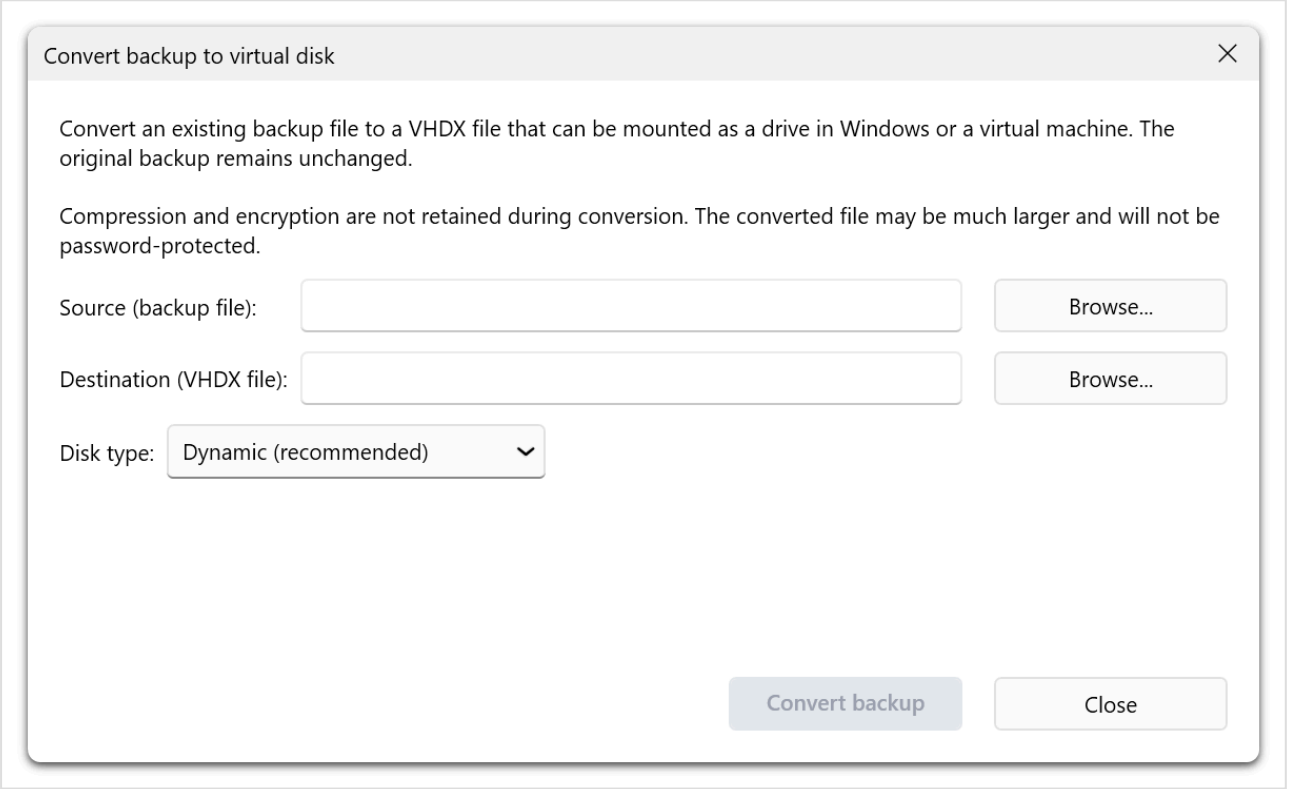
VHD/VHDXとHyper-Vチェックポイントなどの仮想ディスクに対応しています。差分ディスクを利用するには、すべての親ファイルをアクセスできる場所に保管してください。O&O DiskImageで作成したVHD/VHDXバックアップは、元のディスクがオンラインのままでも、同じPC上にマウントできます。

すでにマウント済みの場合はそのまま使用するか、いったんマウントを解除してください。不要になったドライブはマウントを解除して、ドライブ文字を解放します。マウント解除は体験版でも利用できます。

バックアップの変換

バックアップの変換 は、対応するバックアップからWindows用のVHDXファイルを作成します。元のバックアップは変更されません。圧縮とパスワードによる暗号化は引き継がれないため、十分な空き容量を確保し、作成したファイルを適切に保護してください。

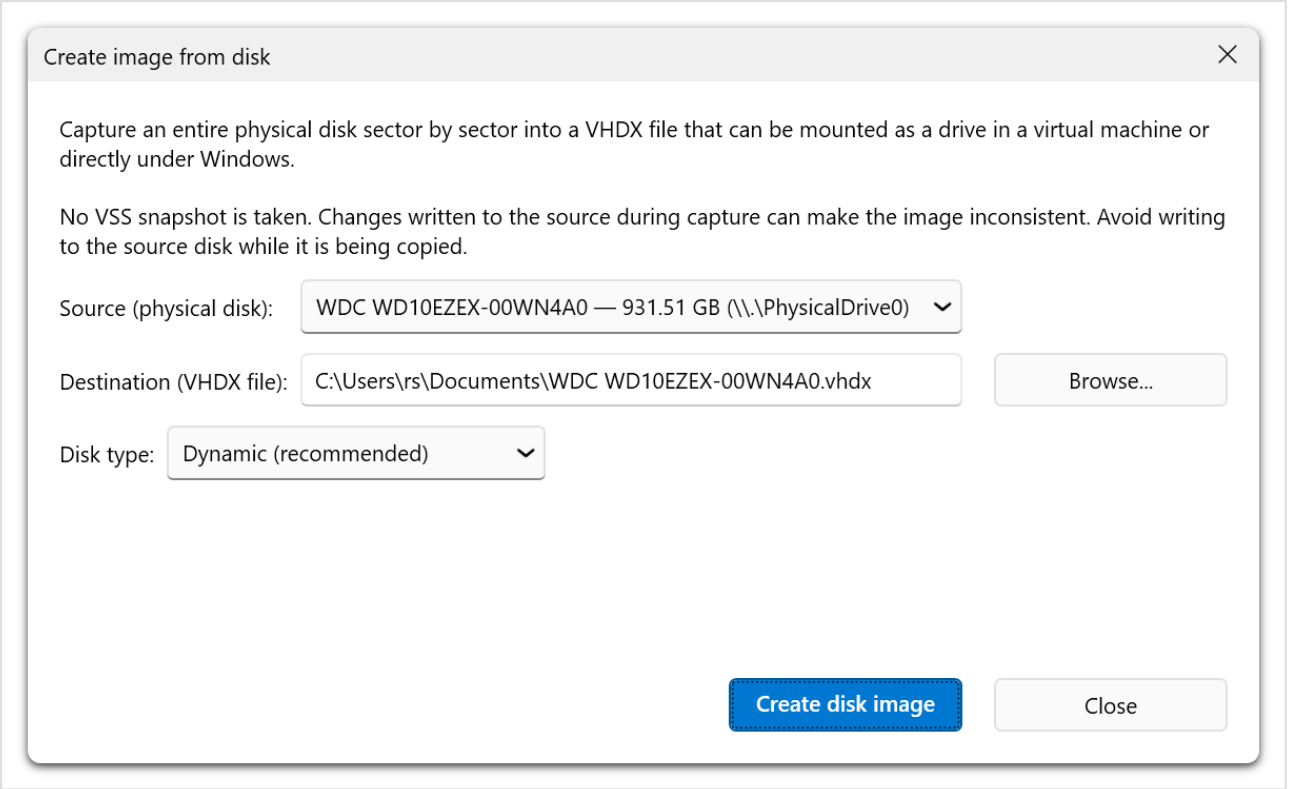
ディスクの他の領域が含まれず、EFIパーティションまたはシステム予約パーティションだけを含むバックアップは変換できません。ディスク全体のイメージを使用してください。



変換時には、元のバックアップ、保存先のVHDXファイル、ディスクの種類を選択します。

ディスクからVHDXを作成する

再利用可能なバックアッププランを作成せずに、物理ディスク全体をVHDXファイルに保存します。VSSスナップショットは作成しません。元のディスクが使用されていないことと、保存先が別の物理ディスク上にあることが必要です。稼働中のシステムにはO&O DiskImageの通常のバックアップ手順を使用してください。



この画面では、選択した物理ディスクからVHDXファイルを作成します。

VHDXをディスクに復元する

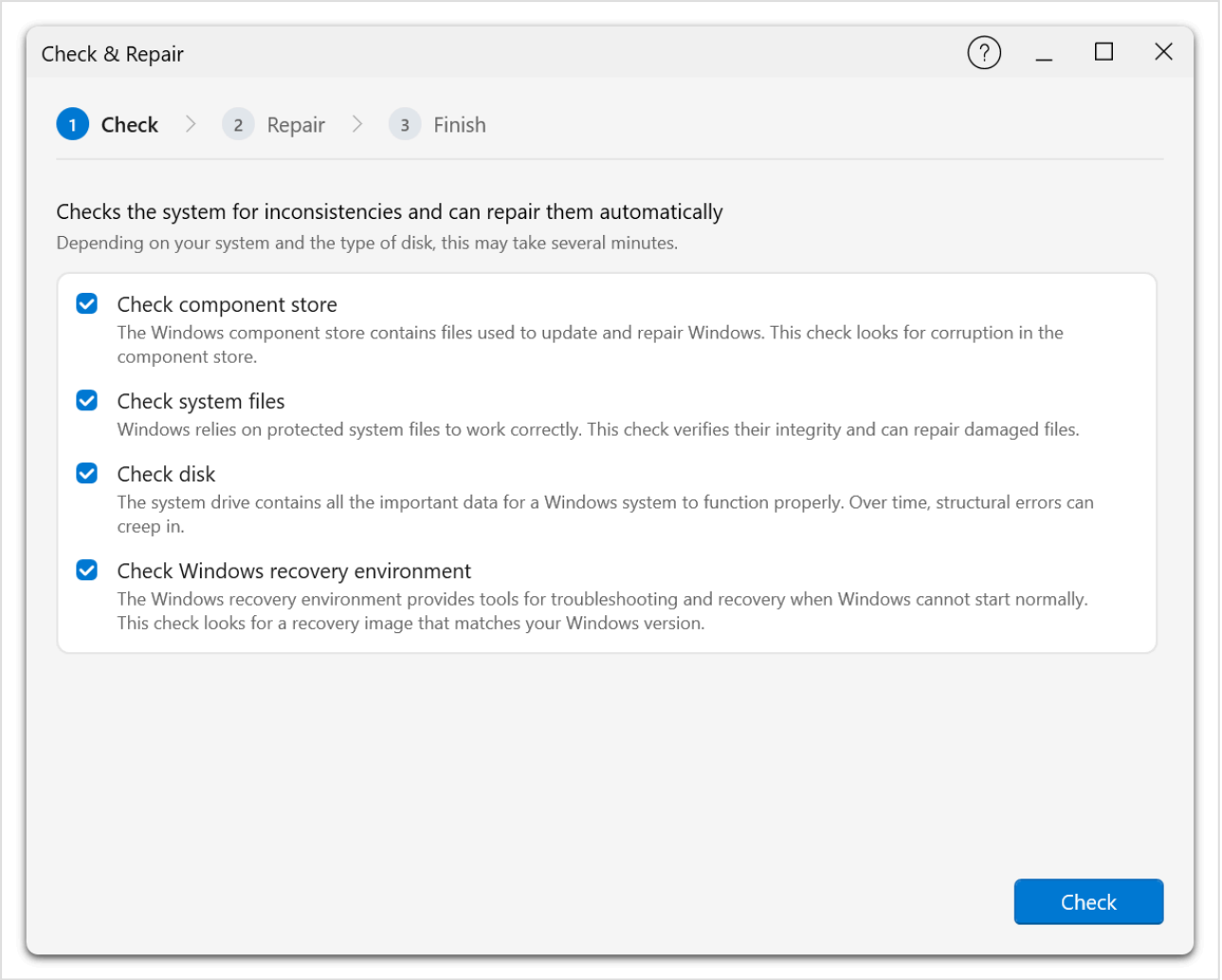
対応するVHD/VHDXファイルを物理ディスクに書き込み、復元先のパーティションテーブルとデータを置き換えます。稼働中のWindowsがあるディスクや、元のファイルを保存しているディスクは復元先に指定できません。セクターサイズに互換性がない場合は、書き込み前に処理が停止します。

起動できる状態を保つため、既定では元のディスク識別子を保持します。復元したディスクと元のディスクを同じコンピューターで同時に使用する必要がある場合にのみ、識別子を変更してください。管理対象のバックアップから手順に沿って復元する場合は ドライブの復元 を参照してください。

チェックと修復

ツール > システム > チェックと修復 は、Windowsのシステムコンポーネント、システムファイル、ファイルシステム、回復環境を検査し、対応する問題の修復を提案します。ウィザードの案内に従い、各項目の結果を確認してください。

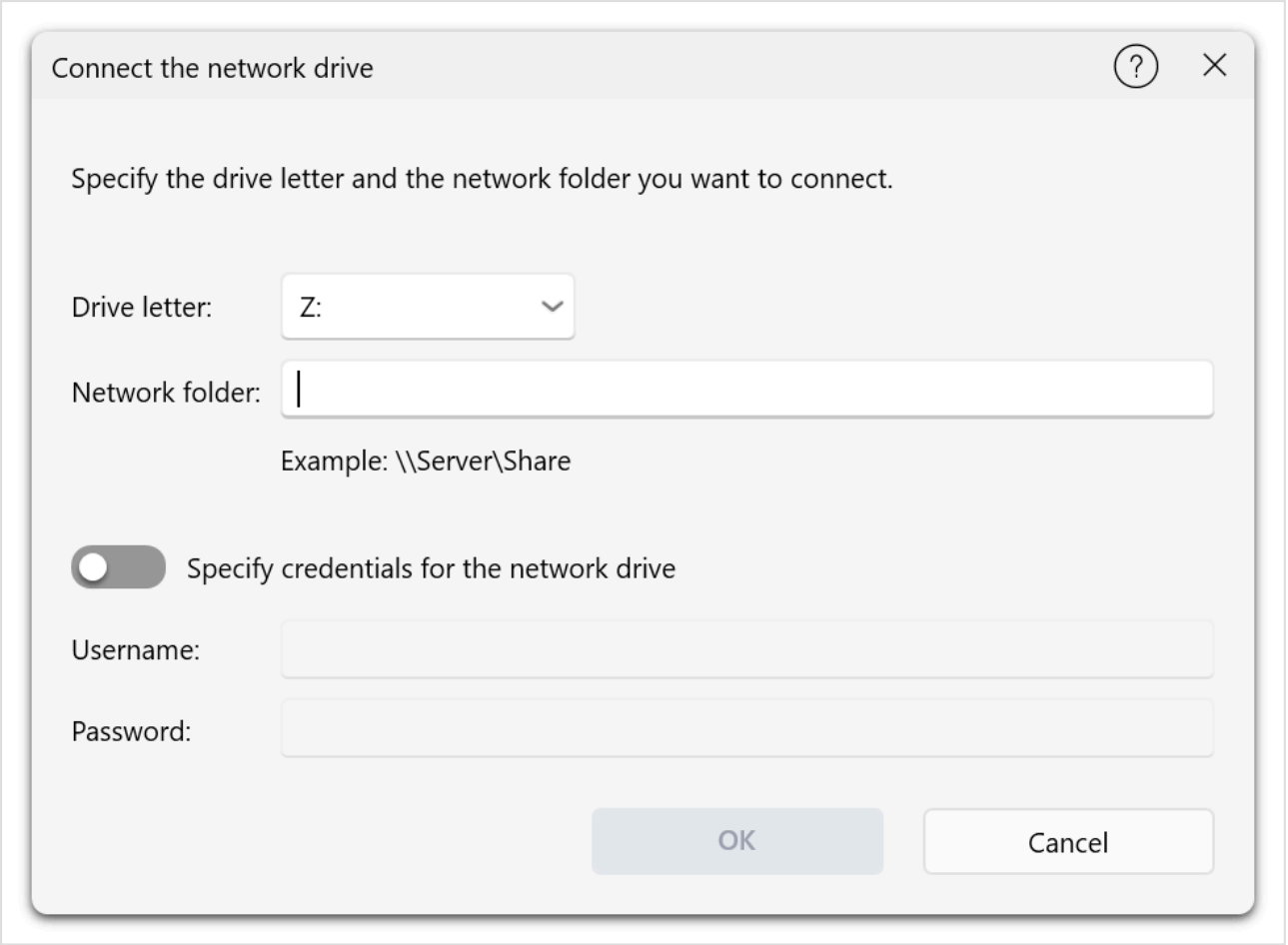
このツールでO&O DiskImageのバックアップコンテナーは修復できません。バックアップファイルを調べるには検証ウィザードを使用します。破損しているときは、検証済みの別のバージョンまたはコピーを使用してください。



チェックと修復は、コンポーネントストア、システムファイル、ドライブ、Windows回復環境を検査します。

ネットワークフォルダーに接続する

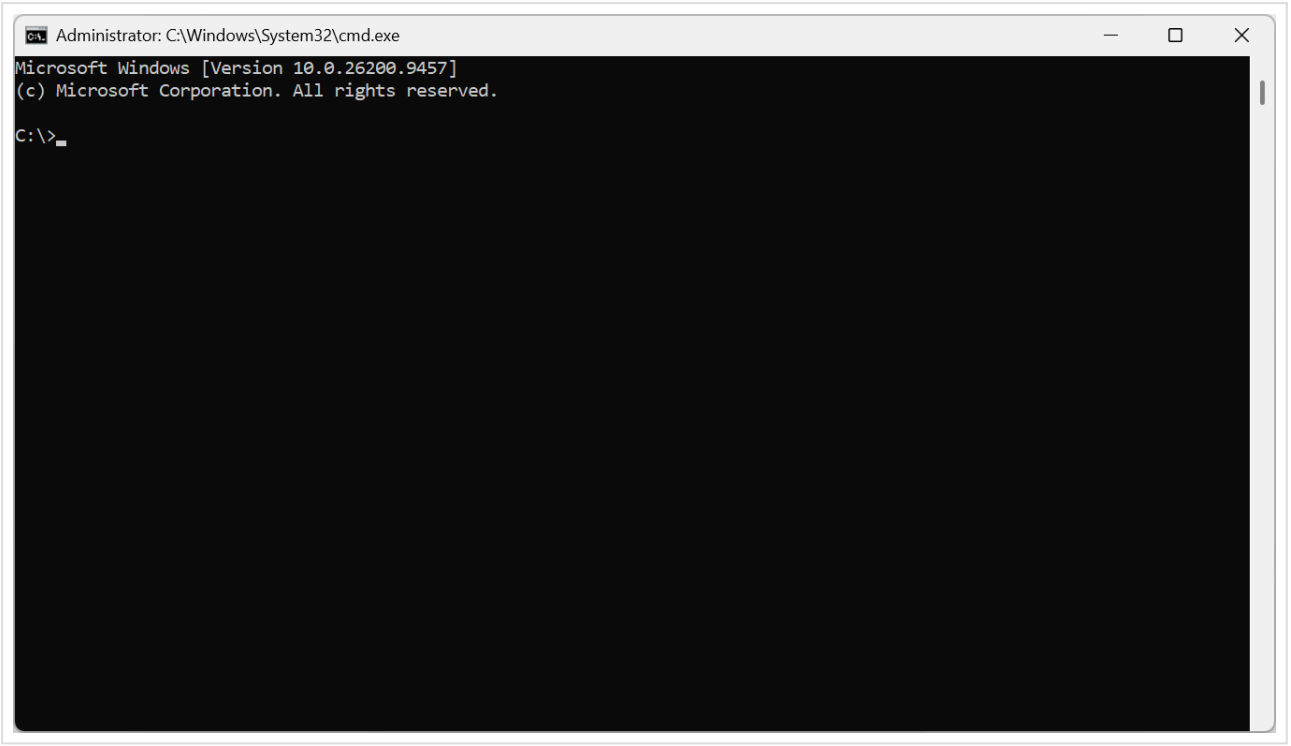
UNCパスと認証情報を入力し、共有フォルダーにドライブ文字を割り当てます。認証情報の保存や接続テストについては バックアップの保存先 を参照してください。



共有フォルダーに接続するには、ドライブ文字、ネットワークフォルダー、必要に応じて認証情報を入力します。

コマンドプロンプト

診断やサポート作業のためにWindowsのコマンドプロンプトを開きます。



このツールは診断やサポート作業で使用するWindowsのコマンドプロンプトを開きます。

設定

設定 では、アプリケーションの動作、新しいバックアップの既定値、復元の既定値をまとめて設定できます。バックアップの既定値は新しいプランに適用されます。既存のプランを変更するには、そのプランの **プロパティ** を開いてください。

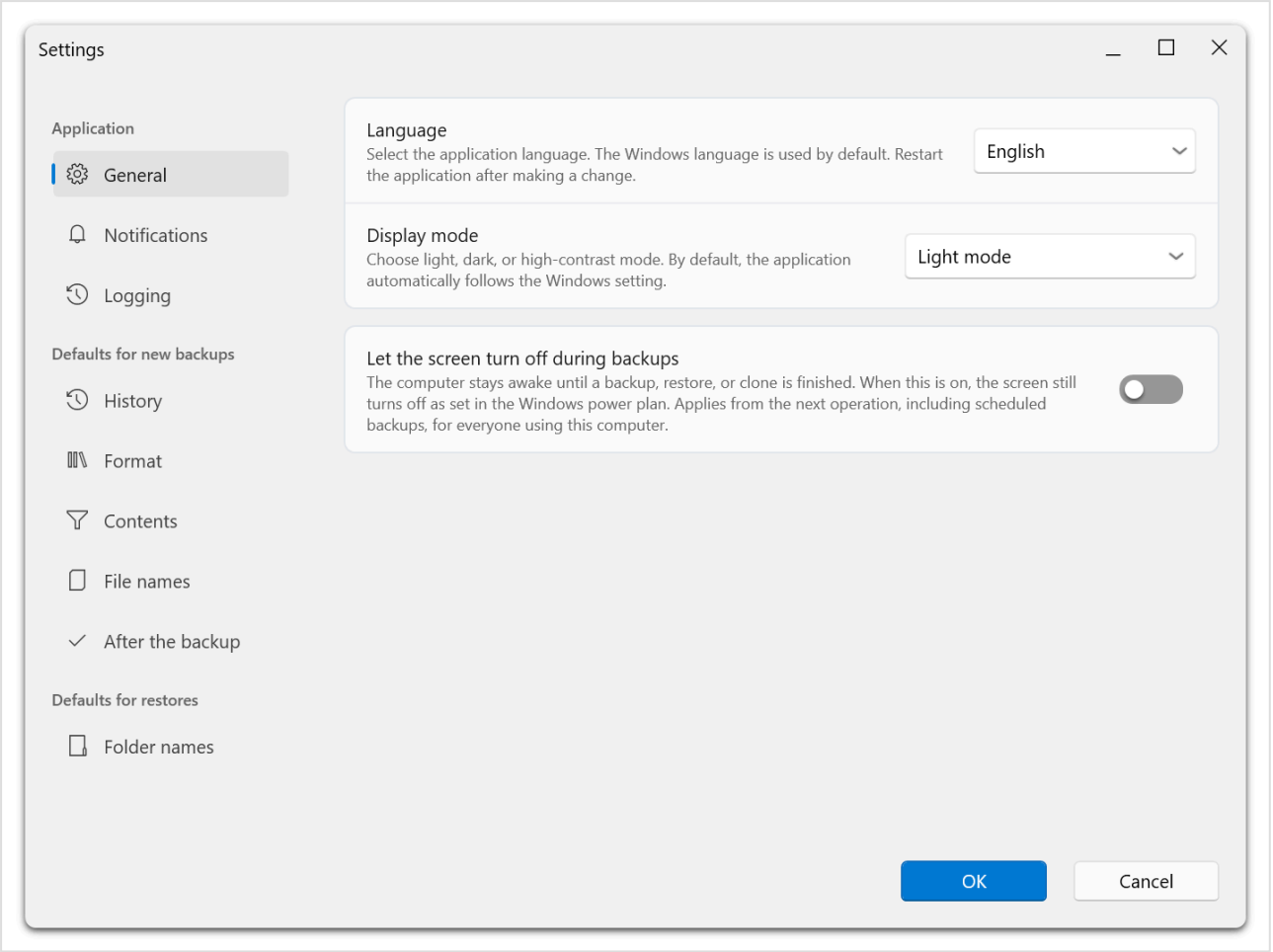
変更を確定して画面を閉じると設定が保存されます。**キャンセル** すると未確定の変更は破棄されます。ただし、テストメールの送信や非表示にした推奨事項の再表示は、選択した時点で実行されます。

アプリケーションの設定

ページ	設定内容
全般	表示言語、外観、操作中に画面を消灯してもよいかどうか。
通知	結果のデスクトップ通知、保護状態の評価にシステムバックアップを含めるかどうか、メール通知、非表示にした推奨事項の再表示。
ロギング	診断用のアプリケーションログとエンジンログ。
詳細	サポート・保守用の設定。Shiftキーを押しながら設定画面を開いた場合に表示されます。

消灯を許可しても、バックアップや転送中にPCがスリープすることはありません。スリープから復帰して実行するかどうかは、各 スケジュール で設定します。

表示言語の変更を反映するには、アプリケーションの再起動が必要な場合があります。回復環境では表示言語を変更できません。



全般設定では言語、表示モード、バックアップ中に画面を消灯できるかどうかを指定します。

メール通知

通知 で、SMTPサーバー、ポート、STARTTLS設定、ログイン情報、送信元、宛先を指定します。通知を有効にしてテストメールを送信してください。通知が有効な場合は、失敗時にメールが送信されます。成功時のメールは任意です。

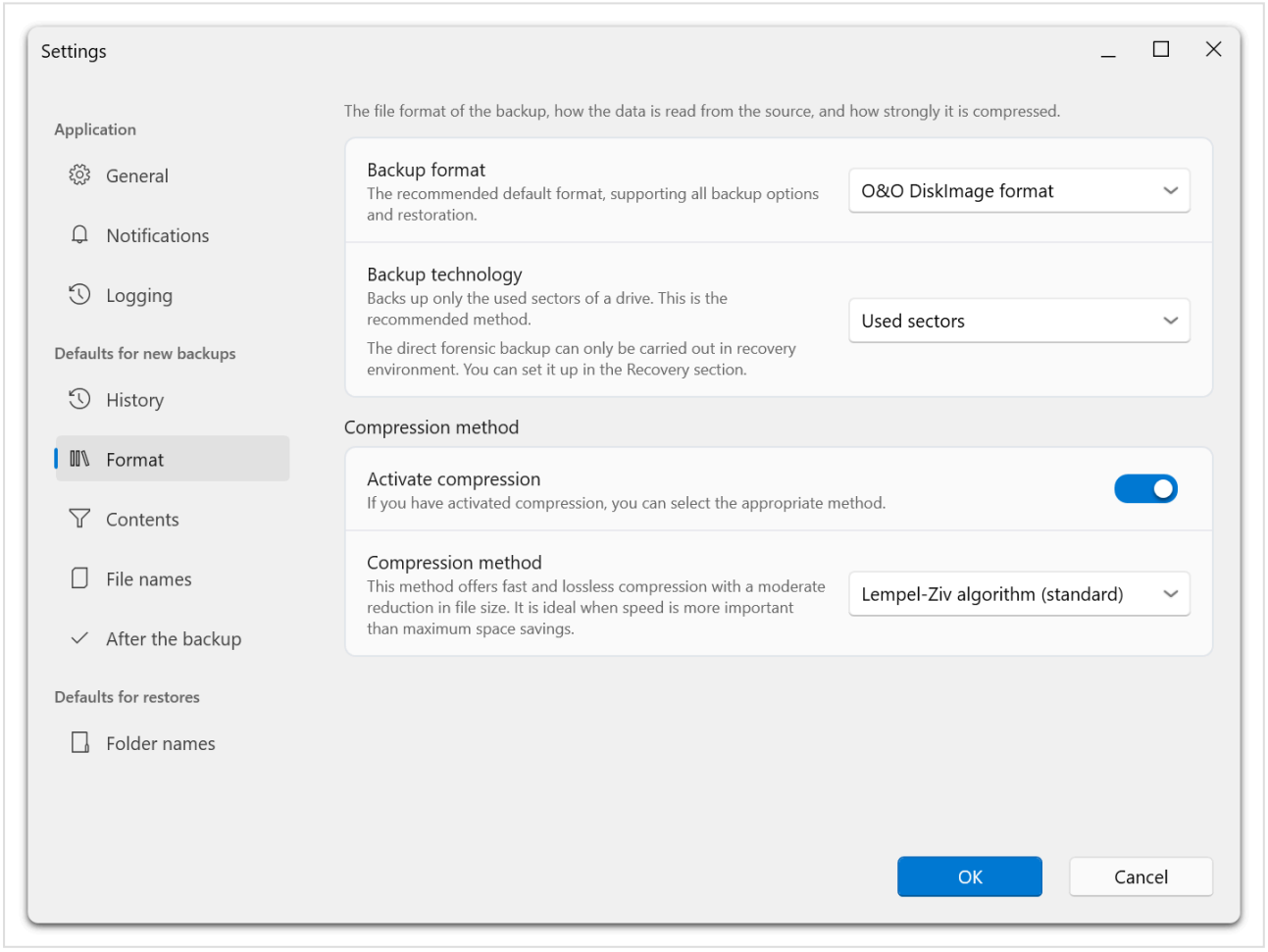
メール設定の保存と送信はバックグラウンドサービスが行います。すでにパスワードを保存している場合は、入力欄を空のままにすると既存のパスワードが保持されます。サービスを利用できない場合は設定画面に表示されます。

新しいバックアップの既定値

ページ	設定内容
履歴	保持期間のプリセットまたは独自のルール、バックアップ方式、フルバックアップの作成間隔。
形式	O&O DiskImage、VHD、VHDXの形式、イメージ作成に使用する技術、圧縮。
内容	除外するファイルとフォルダー。
ファイル名	バックアップフォルダー名とファイル名のテンプレート。
バックアップ後	検証とレポート作成。

個別のプランからも同じオプション画面を開けます。どの設定を編集中かは画面に表示されます。ファイルバックアップにはイメージ形式と技術の設定は適用されません。ドライブイメージではZIP deflateは選択できません。

保存済みのバージョンがあるプランでは、保存先がオフラインであっても、暗号化、形式、バックアップ技術、除外項目は変更できません。バックアップのオプション を参照してください。



新しいバックアップの形式の既定値には、バックアップ形式、バックアップ技術、圧縮が含まれます。

復元の既定値

フォルダー名 では、ファイルの復元時に使用するフォルダーの命名テンプレートを設定します。復元の開始前に、テンプレートを適用した実際の保存先を復元画面で確認してください。

バックアップの保存先

ローカルフォルダー、外付けドライブ、ネットワーク共有、クラウドのコピー先は、別のバックアップ保存先の画面で管理します。各保存先のハンドルをドラッグすると順序を変更できます。バックアップの保存先 を参照してください。

診断とメンテナンス

問題を調べるときやサポートから求められたときに、ログを有効にします。エンジンログの設定を反映するには、再起動が必要な場合があります。

詳細設定には、次回起動時のバックアップ情報の再読み込みや、ユーザー設定のリセットなどがあります。適用する前に画面の説明を確認してください。回復パーティションの検証を個別にスキップする設定は廃止されました。

用語集

このガイドで使用する用語を、英語名のアルファベット順に説明します。

バックグラウンドサービス：メイン画面を閉じていても、日時指定のバックアップ、2つ目のコピー、保持期限を過ぎたバージョンの削除、メール通知を実行します。スケジュールと自動実行 を参照してください。

バックアップチェーン：フルバックアップと、それに依存する増分または差分バックアップの組み合わせです。保持するバージョンの復元に必要なファイルは削除されません。

バックアップ履歴：プランが復元用に保持するバージョンです。保持期間のプリセットまたは独自のルールで指定します。保持期限を過ぎたバージョンは、無期限保持に指定されていない限り、自動的に削除されます。バックアップのオプション を参照してください。

バックアッププラン：対象、保存先、スケジュール、オプションをまとめた設定です。プランを実行するたびに、新しいバージョンを作成できます。

チェックと修復：Windowsのシステムコンポーネント、システムファイル、ファイルシステム、回復環境を検査し、対応する問題を修復するツールです。バックアップファイルは修復できません。

クローン：バックアップ履歴を保存せず、元のディスクを別のディスクに直接コピーします。コピー先の既存のデータは上書きされます。ドライブのクローン を参照してください。

保存先：バックアップを書き込む場所です。ローカルまたは外付けドライブのフォルダー、USBドライブ、ネットワーク共有を利用できます。S3互換ストレージとWebDAVは2つ目のコピー専用です。バックアップの保存先 を参照してください。

差分バックアップ：直近のフルバックアップ以降の変更を保存します。復元にはフルバックアップと、選択した差分バージョンが必要です。

ドライブ接続時のバックアップ：指定したバックアップドライブを接続すると実行されます。通知領域のアプリケーションがシリアル番号、ボリューム名、容量、モデルを使ってドライブを識別します。

暗号化：初回のバックアップ前に設定したパスワードでバックアップを保護します。暗号化されたバックアップは元のパスワードがないと復元できません。

ファイルバックアップ：選択したファイルとフォルダーをファイルバックアップ用のコンテナーに保存します。コンテナーはマウントできないため、ファイルの復元画面を使用します。

フォレンジックバックアップ：未使用のセクターも含めて対象全体をコピーするため、対象全体に相当する容量が必要です。**ダイレクト・フォレンジック** はディスクから直接読み取る方式で、回復環境で利用できます。

フルバックアップ：選択したすべてのデータを保存し、新しいバックアップチェーンの起点になります。

Hyper-Vチェックポイント：Hyper-Vの差分ディスク（`.avhd` または `.avhdx`）です。マウントまたは復元するには、すべての親ファイルが必要です。

イメージ：ディスク全体またはパーティションのバックアップです。対応するイメージはマウントしたり、個別のファイルの復元に使用したりできます。

増分バックアップ：直前のバックアップ以降の変更を保存します。復元にはフルバックアップと、選択した時点までのすべての増分バージョンが必要です。

マウント：対応するイメージを読み取り専用のWindowsドライブとして開きます。ファイルを参照したりコピーしたりできます。ツール を参照してください。

通知領域のアプリケーション：Windowsの通知領域に進行状況を表示します。プランの開始、操作のキャンセル、接続時にバックアップするドライブの検出も行います。

回復環境：旧称はFortress Modeです。ローカルのWindows回復環境（WinRE）にO&O DiskImageを組み込み、別途USBメモリがなくてもシステムを復元できるようにします。起動メディアと回復環境 を参照してください。

実行：バックアッププランを1回動作させることです。結果は成功、失敗、キャンセルのいずれかです。失敗した場合は利用可能なバージョンが作成されないことがあります。

S3互換ストレージ：エンドポイント、バケット、リージョン、アクセスキーで接続するクラウドストレージです。2つ目のコピーを保存できます。

2つ目のコピー：バックアップ完了後に、バックグラウンドサービスが別のドライブ、ネットワーク共有、S3互換ストレージ、またはWebDAVサーバーに作成するコピーです。2つ目のコピー を参照してください。

シャドウコピー：バックアップの読み取り中にWindowsが提供する、整合性のあるスナップショットです。シャドウコピーが失われたり、確保した領域があふれたりすると、無人実行のバックアップは停止します。

バックアップ元：保護対象のデータです。PC全体、ドライブとパーティション、またはファイルとフォルダーを選択します。バックアップの対象 を参照してください。

起動メディア：O&O DiskImageを含む起動可能なUSBメディアまたはISOファイルです。ローカルの回復環境が利用できない場合や、システムディスクを交換する場合に使用します。

使用中のセクター：データのあるセクターだけをコピーする、既定のバックアップ技術です。

検証：バックアップを読み取り、整合性と読み取りの可否を確認します。データの復元やバックアップ元の変更は行いません。実際の復元テストは別途必要です。

バージョン：ある時点に復元できるよう保存したバックアップです。

VHD / VHDX：Microsoftの仮想ディスク形式です。O&O DiskImageで作成、マウント、検証、復元できます。この形式では使用中のセクターのフルバックアップを作成し、O&Oの圧縮とパスワードによる暗号化は使用しません。

WebDAV：Webサーバー上にファイルを保存するためのプロトコルです。WebDAVサーバーには2つ目のコピーを保存できます。

WinRE：コンピューター上にインストールされているWindows回復環境です。O&O DiskImageのローカルの回復環境はWinREを利用します。

トラブルシューティング

保存先に接続できない

ドライブを再接続するか、ネットワーク共有、認証情報、書き込み権限を確認してください。ネットワーク設定を変更した後は **接続テスト** を実行します。

ネットワークへのスケジュール実行では、保存先が利用可能になるまで最大3分間待機します。それでも接続できない場合はレポートを確認します。バックアップファイル自体が存在しない状態と、保存先が接続されていない状態は異なります。一覧から項目を削除する前に保存先を再接続してください。

予定したバックアップが実行されなかった

プランが有効で、現在の日付が開始日から終了日までの範囲内にあることを確認します。バックグラウンドサービスが利用可能で、アプリケーションとの互換性があることも確認します。予定時刻と実際の開始時刻はレポートで確認できます。

必要に応じて、予定時刻に実行できなかったバックアップを後から実行する設定を有効にします。PCのスリープを解除して実行するには、スケジュールでこの機能を有効にし、Windowsの電源設定でもスリープ解除タイマーを許可します。この機能では、シャットダウン中または休止状態のPCは起動できません。

ドライブ接続時の実行には、通知領域のアプリケーションを起動したままにし、指定したドライブを接続して、設定した待ち時間が経過するのを待ちます。同じドライブ文字でも別のドライブの場合は、保存した識別情報と一致しないことがあります。

プランに暗号化パスワードの入力が再度求められた場合は、プロパティ画面で元のパスワードを入力します。保存したパスワードが利用できない間は、暗号化されたバックアップをスケジュール実行できません。

増分バックアップの代わりにフルバックアップが実行された

レポートに記載された理由を確認してください。週次・月次の新しいチェーンを開始した、対象が変更された、以前のバージョンが利用不能または適さないといった理由があります。今回だけフルバックアップを作成するよう指定した場合も、新しいチェーンが開始されます。以降のプランの設定は変わりません。

2つ目のコピーが失敗した

2つ目のコピーがありません という警告が表示されても、正常に完了した元のバックアップは利用できます。2つ目の保存先を再接続し、認証情報と空き容量を確認して、**コピーを再試行** を選択します。

S3やWebDAVの場合は、サービスに応じてエンドポイント、バケットまたはフォルダー、リージョン、アクセス権も確認してください。アップロードにはコンピューターのプロキシ設定が使用され、画面での接続テスト

とは設定が異なる場合があります。アップロードが終わるまではコンピューターをネットワークに接続したままにしてください。

VHD/VHDXバックアップを開始できない

対象には排他的にアクセスできる必要があり、保存先は別の物理ディスク上にあることが必要です。稼働中のWindowsがインストールされているディスクは対象にできません。対象を使用中のプログラムを閉じるか、稼働中のシステムのバックアップにはO&O DiskImage形式を使用してください。該当する理由はプラン画面で確認できます。

スナップショットまたは読み取りのエラーでバックアップが停止した

シャドウコピーが失われた場合や、その領域があふれた場合は、元の整合性のあるスナップショットを読み取れません。無人実行のバックアップは停止します。手動実行中には続行するかどうかを尋ねられる場合があります。そのスナップショットを使わずにバックアップを続ける前に、メッセージの内容をよく確認してください。

バックアップ元の読み取りエラーでもバックアップは停止します。レポートとバックアップ元のディスクを確認し、原因を解決してから新しいバックアップを作成して検証してください。

バックアップをマウントできない

ファイルバックアップのコンテナーはドライブとしてマウントできません。ファイルの復元画面から必要なファイルを復元してください。

対応するイメージの場合は、すでにマウント済みでないか、空いているドライブ文字があるか、Windowsの自動マウント設定やストレージポリシーで制限されていないかを確認します。エラーの詳細とログも確認してください。影響を把握していない状態でWindowsのストレージポリシーを変更しないでください。

復元先を選択できない

復元先の最小サイズと、仮想ディスクの場合はセクターサイズの互換性を確認してください。元のイメージがあるディスクや稼働中のWindowsディスクは復元先にできません。イメージの保存場所を特定できなければ別のディスクかネットワーク共有に移動します。Windowsシステムを復元する場合は、回復環境で再起動してください。

バックアップドライブの容量が足りない、またはファイルを削除できない

履歴と無期限保持の設定を確認してください。古いファイルでも、バックアップチェーンに必要なものは残ります。履歴を短くするか、より大きな保存先を選び、削除にはアプリケーションの機能を使用してください。

削除する前にバックアップのマウントを解除し、ファイルを使用中のアプリケーションを終了します。削除エラーには対象ファイルが表示され、特定できる場合は、そのファイルを開いているアプリケーションも表示されます。

パスワードが受け付けられない

大文字と小文字、キーボード配列を確認し、元のパスワードを入力してください。既存のプランでパスワードを再入力しても、パスワード自体は変更されません。暗号化したバックアップは正しいパスワードがなければ復元できません。

レポートが見つからない

プランの **バックアップ後** でレポート作成の設定を確認してください。新しいプランの場合は **設定 > 新しいバックアップの既定値 > バックアップ後** で確認します。削除したレポートは、バックアップファイルを再接続するだけでは再作成されません。

回復環境を利用できない

リカバリ に表示された理由を確認し、求められた場合は回復環境を作成し直してください。ローカルの回復環境から起動できない場合は、起動メディアを使用します。ライセンスの確認には有線ネットワーク接続を試してください。回復環境での操作が失敗した場合は、バックアップと同じ場所にログが保存されていないか確認してください。

よくある質問

このガイドが対象とするエディションは何ですか？

このガイドはO&O DiskImage 23 Premium Editionを対象としています。体験版の制限は、該当する機能の画面に表示されます。

最初にどのバックアップを作成すればよいですか？

バックアップ > PC全体 で、外付けドライブまたはNASに保存してください。その後、ローカルの回復環境または起動メディアを準備します。クイックスタート を参照してください。

プラン、バージョン、実行の違いは何ですか？

プランは、対象、保存先、スケジュール、オプションをまとめた設定です。バージョンは、特定の時点に復元できるよう保存したバックアップです。実行とは、バックアップを1回行うことで、結果は成功、失敗、キャンセルのいずれかです。失敗した実行では、利用できるバージョンが作成されないことがあります。

バックアップ方式と履歴はどのように選びますか？

履歴のプリセットを選び、方式を自動のままにすると、定期的なフルバックアップの間に増分バックアップが作成されます。差分バックアップ、フルバックアップのみの運用、独自の保持ルールを指定するには **カスタム** を選びます。バックアップのオプション を参照してください。

なぜ予想より多くの古いファイルが残るのですか？

保持対象のバージョンを復元するために、同じチェーンの過去のファイルが必要な場合は、それらも残ります。履歴には実際にバックアップした期間を数え、プリセットでは最新の3バージョンを必ず保持します。無期限保持に指定したバージョンも自動削除されません。

メイン画面を閉じていてもバックアップできますか？

はい。日時指定のスケジュールはバックグラウンドサービスが実行します。ドライブ接続時の実行には、ドライブを検出する通知領域のアプリケーションも必要です。毎月のスケジュールや、実行時にスリープから復帰する設定も利用できます。スリープからの復帰は既定で無効です。

クラウドにもコピーを保存できますか？

はい。ローカルまたはネットワークのフォルダーに元のバックアップを作成した後、S3互換ストレージまたはWebDAVにコピーするよう設定できます。2つ目のコピーにもプランの保持ルールが適用されます。2つ目のコピー を参照してください。

2つ目のコピーが失敗すると元のバックアップも失われますか？

いいえ。正常に完了した元のバックアップは利用できます。2つ目の保存先の問題を解決し、**コピーを再試行** を選択してください。コピーから復元する予定であれば、事前にその状態を確認してください。

パスワードや除外項目は後から変更できますか？

プランに保存済みのバージョンがあると、パスワード、除外項目、イメージ形式、バックアップ技術は変更できません。異なる設定には新しいプランを作成します。保存済みのパスワードをアプリケーションから利用できなくなった場合は、元のパスワードを再入力してください。

暗号化されたバックアップはパスワードなしで復元できますか？

いいえ。元のパスワードは、復元が必要になる可能性のあるPC以外の場所にも安全に保管してください。

イメージから個別のファイルを復元できますか？

はい。O&O DiskImageで作成したVHDバックアップなど、対応するイメージから復元できます。ファイルの復元機能を使用するか、対応するイメージを読み取り専用でマウントし、エクスプローラーでコピーします。ファイルバックアップのコンテナー自体はマウントできません。

元より小さなパーティションに復元できますか？

条件を満たせば可能です。復元先は、使用中のデータとファイルシステムに必要な領域を含め、イメージから計算された最小サイズ以上でなければなりません。仮想ディスクイメージをディスク全体に復元する場合は、容量とセクターに追加の条件があります。

Fortress Modeはどこにありますか？

現在の名称は **回復環境** です。**リカバリ** から回復環境の準備、状態の確認、別の起動メディアの作成ができます。起動メディアと回復環境 を参照してください。

チェックと修復で破損したバックアップファイルを修復できますか？

いいえ。チェックと修復が検査・修復するのは、対応するWindowsシステムコンポーネントやファイルシステムの問題です。バックアップファイルの検査にはバックアップの検証機能を使用し、破損している場合は検証済みの別のバージョンまたはコピーから復元してください。

サポートとO&Oのその他の製品

O&O DiskImage 23に関するご質問や問題は、O&O Softwareサポートにお問い合わせください。

サポートへのお問い合わせ

O&O Softwareサポート にアクセスし、次の情報をお知らせください。

- 製品とWindowsのバージョン。
- 失敗した操作のレポート。
- バックアップ元と保存先の種類。
- 手動、スケジュール、ドライブの接続時のいずれの方法で実行したか。
- 通常のWindowsと回復環境のどちらで問題が発生したか。

サポートから求められた場合はログを添付してください。ログの有効化については レポートとログ、よくある問題と対処方法については トラブルシューティング を参照してください。

ライセンスと更新

体験版、ライセンス認証、更新後の確認事項については インストールとライセンス認証 を参照してください。製品情報は O&O DiskImage製品ページ に掲載されています。

O&Oのその他の製品

製品	用途
O&O Syspectr	PCとサーバーのリモート監視・管理
O&O Defrag	PCとサーバーのストレージの最適化
O&O DiskRecovery	削除したファイルや、破損したファイルシステムからのデータ復元
O&O ShutUp10	Windowsのプライバシー設定の管理
O&O SafeErase	ファイルや空き領域のデータを復元できないように安全に消去

O&Oの製品一覧 を参照してください。